

# **第6次東栄町総合計画の策定に向けた 住民意識調査**

## **結果報告書**

平成26年度

東 栄 町

# 目 次

序 章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
3. 回収結果	1
4. 本報告書における注意事項	1
第1章 回答者の属性	3
1. 性別・年齢	3
2. 居住地区	4
3. 職業	5
4. 世帯のタイプ	5
5. 同居の家族	6
6. 居住歴	7
7. 居住年数	8
第2章 東栄町のまちについて	9
1. 東栄町の住みやすさ	9
2. 定住意向	11
3. 定住したい理由	13
4. 移転したい理由	15
第3章 東栄町の暮らしの満足度と今後のまちづくりの重要度	17
1. 暮らしの満足度	17
2. まちづくりの重要度	26
3. 満足度と重要度の関係	34
第4章 東栄町の将来のまちづくりについて	40
1. 将来のまちの姿	40
2. 産業振興	42
3. 観光・交流の推進	44
4. 高齢者施策	46
5. 子育て支援	48
6. 学校教育	50
7. 生涯学習・スポーツ振興	52
8. 参加している地区のまちづくり活動	54
9. 今後参加したい地区のまちづくり活動	56
10. 住民参加や住民主体のまちづくりについて	58
11. 移住促進策について	60
12. 災害対策について	62

# 序章 調査の概要

## 1. 調査の目的

本町では、平成18年に策定した平成27年を目標年次とする第5次東栄町総合計画にもとづき、町政を運営しているが、目標年次を迎えることから、現在、平成28年度から平成37年度を計画期間に、これからのまちづくりの方向性を示す「第6次東栄町総合計画」の策定に向けての作業を行っている。

そこで、住民の現在の東栄町に対する評価や、今後のまちづくりを進めていく上での意見を把握し、計画策定に役立てるため、意識調査を実施した。

調査の対象は、町内に居住する18歳以上の方（高校生を除く）全てとし、施策・事業の満足度や今後のまちづくりについての考えを把握することを目的とした。

## 2. 調査方法

本調査の概要は以下に示すとおりである。

- (1) 調査地域 : 東栄町内全域
- (2) 調査対象 : 町内に在住する満18歳以上の住民（高校生を除く）全て
- (3) 対象者数 : 3,235人（9名から宛先不明で返送のため、実質3,226人）
- (4) 調査方法 : 郵送による配布・回収
- (5) 調査期間 : 平成26年10月29日（水）～11月14日（金）

## 3. 回収結果

アンケートの回収結果は以下に示すとおりである。

配布数	3,226票
有効回収数	1,375票
有効回収率	42.6%（平成17年：874票：53.0%）

※なお、1,381票の回収を得ましたが、うち6票は白紙等であったため、無効票として扱い、1,375票を有効回収数としている。

## 4. 本報告書における注意事項

- 図中の構成比（%）は、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、複数回答はもちろんのこと、単数回答の場合でも必ずしも合計は100.0%にならない。また、クロス集計については、「無回答」を除いて再集計していること、満足率などについては回答項目を一部分、再集計しているため、四捨五入等の関係でグラフ・図中の構成比とが一致しないことがある。
- 表、グラフ等の見出しおよび文章中の選択肢の表現については、趣旨が変わらない程度に簡略化しているものもある。

- 回答率の母数は、原則としてその質問の回答者数であり、表、グラフ内では「n=〇〇」と表示している。なお、クロス集計や満足度については「無回答」を除いているため、町全体、地区別、年齢別での母数が一致しない場合がある。
- 今回、1,375人からの回答を得たが、この結果がどの程度の精度を持った回答結果であるのかは、アンケート調査結果に対する標本誤差を算出し、その誤差範囲により検討することができる。この標本誤差を算出すると、下記の通りで、最も誤差の大きい場合でも全体で2.00%となり、町民全体に回答してもらった場合と比べて最高で±2.00%の誤差しか生じない結果となり、統計上有効な結果であると考えられる。

母集団	標本数	抽出率	回答割合				
			10%・90%	20%・80%	30%・70%	40%・60%	50%
3,235	1,375	42.50%	1.20	1.60	1.84	1.96	2.00

$$\sigma = k \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

*M* : 母集団  
*n* : 有効回収数  
*p* : 結果の比率  
*k* : 信頼度による定数  
*σ* : 標本誤差

※信頼度を95%とすると、*k* = 1.96 となる。

# 第1章 回答者の属性

## 1. 性別・年齢

問1 あなたの性別・年齢を教えてください。

### ①性別

◆回答者の性別は、男性が44.0%、女性が50.0%となっています。

○回答者の性別は、男性が44.0%、女性が50.0%と、無回答が6.0%となっている。

○住民基本台帳人口では、平成26年10月1日現在、男性が1,708人(46.7%)、女性が1,953人(53.3%)のため、今回の調査結果は、町の状況に比べて概ね同じような結果となっている。

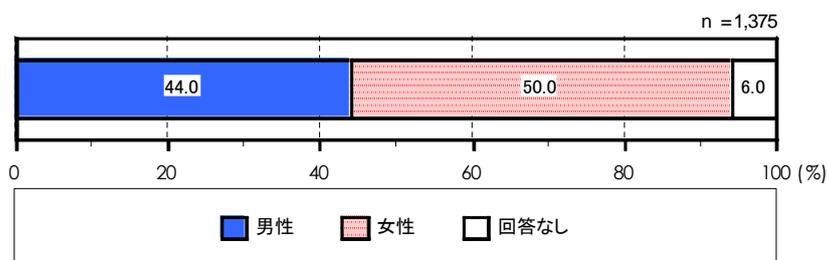


図1-1 回答者の性別

### ②年齢

◆回答者の年齢は、75歳以上が最も多くなっています。

○回答者の年齢は、「75歳以上」が37.2%で最も高く、次いで「65～69歳」が11.9%、「70～74歳」が11.6%と、高齢者の割合が高くなっている。

○住民基本台帳人口では、平成26年10月1日現在、75歳以上の人口が1,103人(30.1%)で最も多く、次いで「50歳代」が444人(12.1%)、「65～69歳」が329人(9.0%)となっており、今回の調査結果は、町の状況に比べて若い人の回答が少なくなっている。

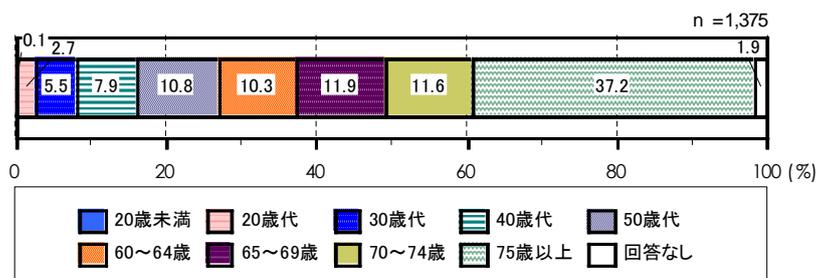


図1-2 回答者の年齢

## 2. 居住地区

問2 あなたがお住まいの地区を教えてください。地区名がわからない方は、お住まいの大字名をご記入ください。

### ◆回答者の居住地は、本郷地区が最も多くなっています。

○回答者の居住地は、本郷地区が 23.7%で最も割合が高く、次いで三輪地区が 15.7%、中設楽地区が 10.8%、下田地区が 10.5%と続いている。

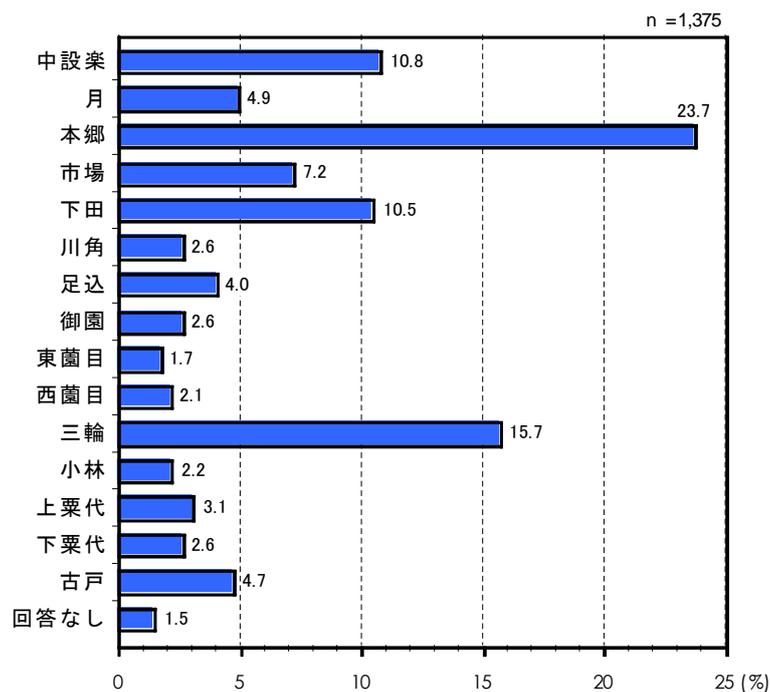


図 1-3 回答者の居住地

### 3. 職業

問3 あなたの職業を教えてください。

#### ◆回答者の職業は、無職が最も多くなっています。

○回答者の職業は、高齢者の回答が多いこともあり、「無職」が47.1%で最も割合が高く、次いで「会社員、公務員、団体役員等の勤め人」が18.7%、「パートタイマー、アルバイト」が9.7%、「自営業（商工業）」が7.1%となっている。

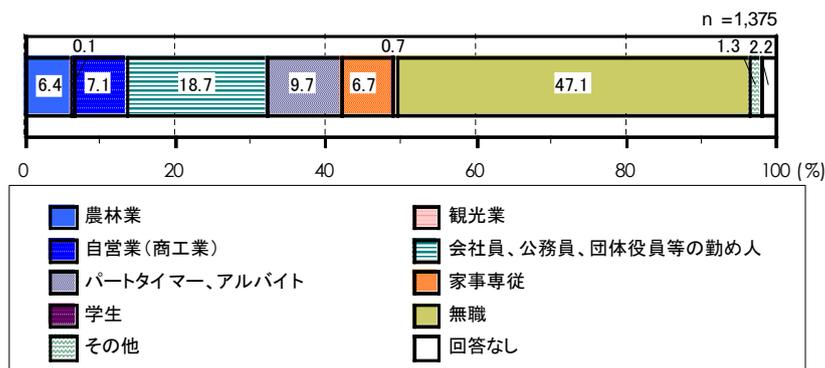


図1-4 回答者の職業

### 4. 世帯のタイプ

問4 あなたの世帯のタイプを教えてください。

#### ◆回答者の世帯のタイプは、夫婦のみ世帯、親子（2世代）が最も多くなっています。

○回答者の世帯のタイプは、「夫婦のみ」が35.8%で最も割合が高く、次いで「親子（2世代）」が29.5%となっている。また、「親・子・孫（3世代）」が15.1%、「単身」が14.8%となっている。

○前回調査に比べ、「親子（2世代）」や「親・子・孫（3世代）」が減少し、「単身」が増加している。

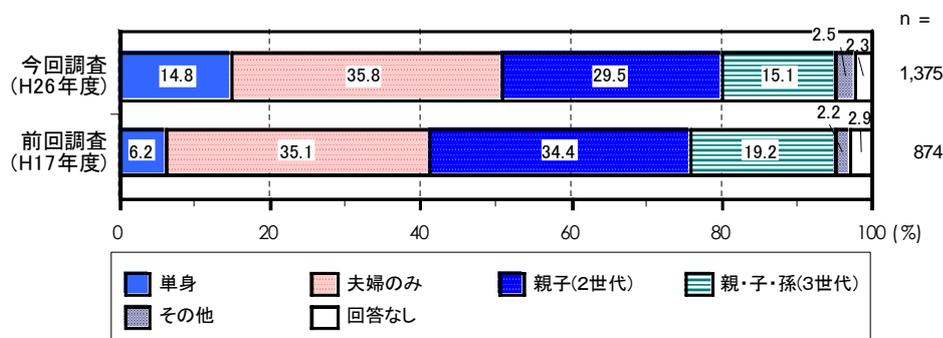


図1-5 回答者の世帯のタイプ（前回調査比較）

## 5. 同居の家族

問5 あなたのお宅にはどのような方が同居されているかを教えてください。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

### ◆回答者と同居している家族は、「75歳以上の方がいる」が最も多くなっています。

○回答者と同居している家族は、「75歳以上の方がいる」が41.5%で最も割合が高く、次いで「65歳～74歳の方がいる」が26.3%と、高齢者が多くなっている。

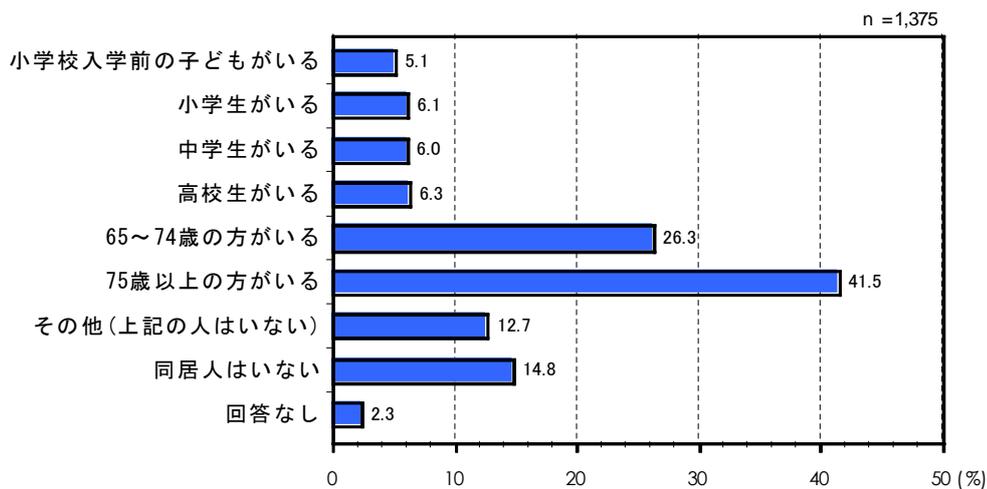


図 1-6 回答者の同居の家族

## 6. 居住歴

問6 あなたはいつから東栄町に住んでいますか。

### ◆回答者の居住歴は、「生まれたときからずっと東栄町に住んでいる」と「生まれは他市町村でその後、東栄町に移り住んだ（移住・婚姻など）」がほぼ同等となっています。

○回答者の東栄町での居住歴は、「生まれたときからずっと東栄町に住んでいる」が 38.3% (527 人) で最も割合が高く、次いで「生まれは他市町村でその後、東栄町に移り住んだ（移住・婚姻など）」が 36.7% (504 人) となっている。また、「生まれは東栄町で、一旦町外に移り住み、その後、Uターンして東栄町に戻ってきた」は 23.1% (318 人) となっている。

○前回調査に比べて、「生まれは他市町村でその後、東栄町に移り住んだ（移住・婚姻など）」が 5.9 ポイント上昇しており、移住や結婚などによる U ターンが増えていることがうかがえる。

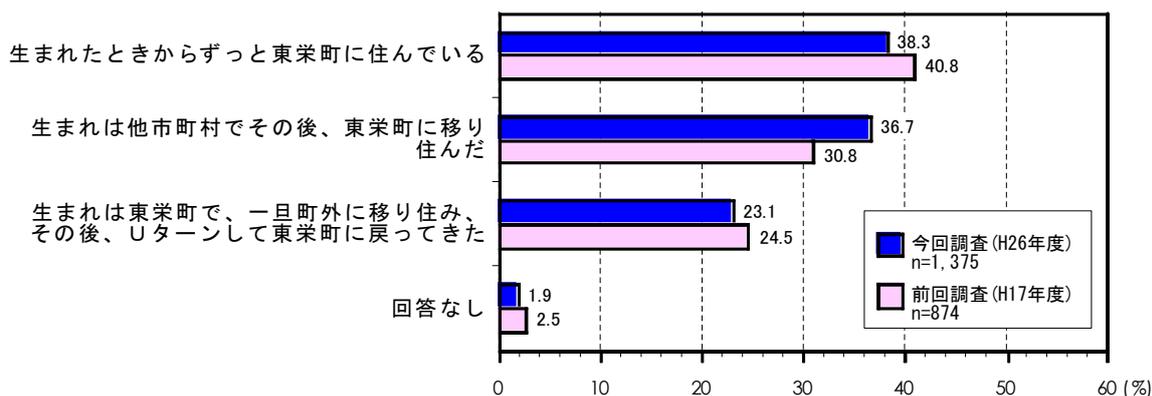


図 1-7 回答者の居住歴（前回調査比較）

## 7. 居住年数

問7 問6で2または3に回答した方へお伺いします。あなたは、東栄町にお住まいになって何年になりますか。（一時的に町外へ転居した場合は、町内にお住まいの年数の合計）

### ◆UターンやIターン等の回答者の居住年数は、「30年以上」が最も多くなっています。

○問6でUターンやIターンをしてきた回答者 822 人の東栄町での居住年数は、「30年以上」が61.8%で最も割合が高くなっている。次いで「10年以上20年未満」が13.3%、「20年以上30年未満」が10.7%と、10年以上住んでいる人が8割以上を占めている。

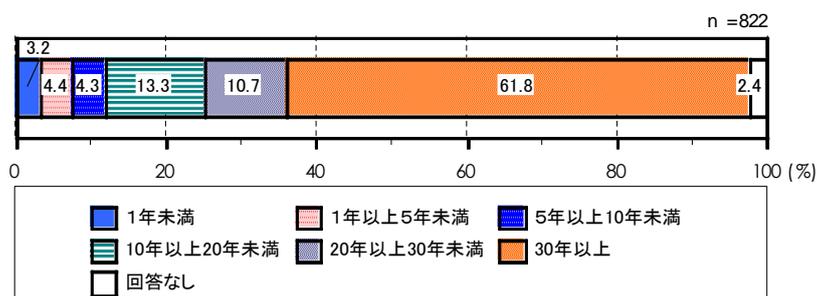


図 1-8 U I ターン者の居住年数

## 第2章 東栄町のまちについて

### 1. 東栄町の住みやすさ

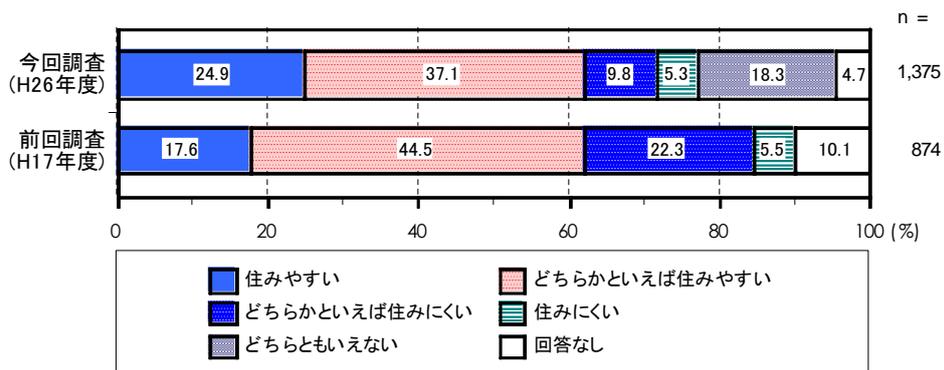
問8 あなたは、東栄町は住みやすいと思いますか。

◆東栄町の住みやすさは、「住みやすい」が24.9%、「どちらかといえば住みやすい」が37.1%で、あわせて62.0%となっています。

○東栄町の住みやすさについては、「住みやすい」が24.9%、「どちらかといえば住みやすい」が37.1%となっており、あわせて62.0%が住みやすいと感じている。

○一方、「どちらかといえば住みにくい」が9.8%、「住みにくい」が5.3%となっており、あわせて15.1%が住みにくいと感じている。

○なお、前回調査と比較して、「住みやすい」が7.3ポイント増加し、「どちらかといえば住みやすい」が7.4ポイント減少した結果となっている。



※H17年度調査に「どちらともいえない」の選択肢はない

図 2-1-1 東栄町の住みやすさ (前回調査比較)

## 【性別・年齢別】

○性別では、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」をあわせて住みやすいと感じている方が、男性では 62.7%、女性では 62.3%と、性別であまり住みやすさが変わらない。

○年齢別では、年齢が高くなるほど、「住みやすい」と感じている方が多く、75 歳以上では 35.2%となっている。なお、40 歳代では「住みやすい」と感じている方が少なく、「どちらかといえば住みにくい」と感じている方が多くなっている。

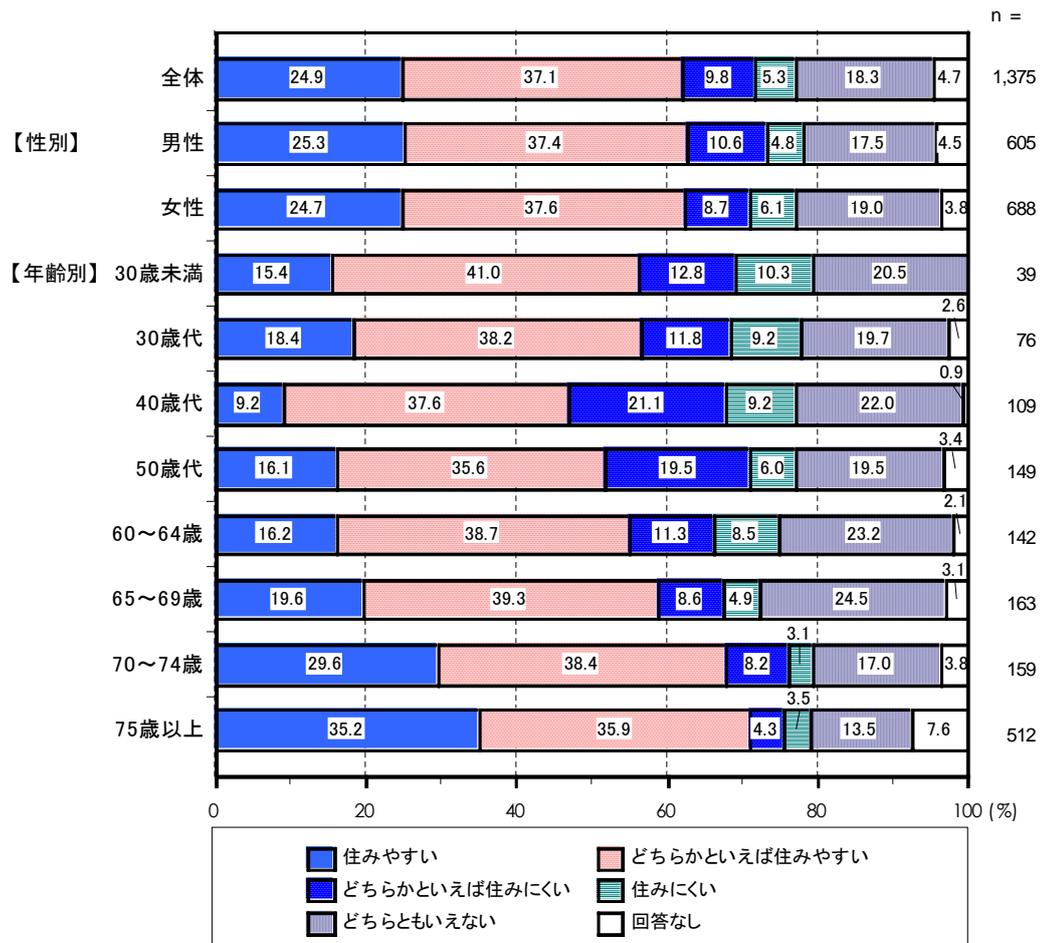


図 2-1-2 東栄町の住みやすさ（性別・年齢別）

## 2. 定住意向

問9 あなたは、これからも東栄町に住み続けたいと思いますか。

### ◆東栄町への定住意向については、「永住したい」が 56.8%、「当分は住み続けたい」が 26.0%で、あわせて 82.8%となっています。

○東栄町への今後の定住意向に対して、「永住したい」が 56.8% (781 人)、「当分住み続けたい」が 26.0% (358 人) で、あわせて 82.8% (1,139 人) と、8 割以上の方が東栄町に定住したいと考えている。

○一方、「いずれは移転したい」が 9.8% (135 人)、「すぐにでも移転したい」が 1.5% (21 人) となっており、あわせて 11.3% (156 人) が移転したいと考えている。

○なお、前回調査と比較して、「永住したい」が 21.0 ポイント増加し、「当分住み続けたい」が 7.0 ポイント減少したが、全体として定住したいと考えている方が 14.0 ポイント上昇している。

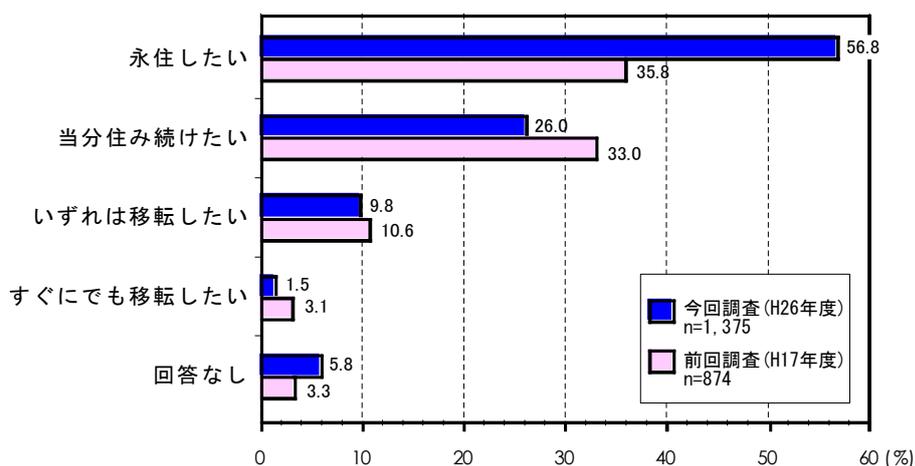


図 2-2-1 定住意向 (前回調査比較)

## 【性別・年齢別】

○性別では、「永住したい」と考えている方が、男性では59.3%、女性では55.1%となっており、また「できれば移転したい」と考えている方が、男性では7.8%、女性では12.1%となっており、男性の方が定住したいと考えている方が多くなっている。

○年齢別では、年齢が高くなればなるほど、「永住したい」と考えている方が多く、75歳以上では70.5%を占めている。

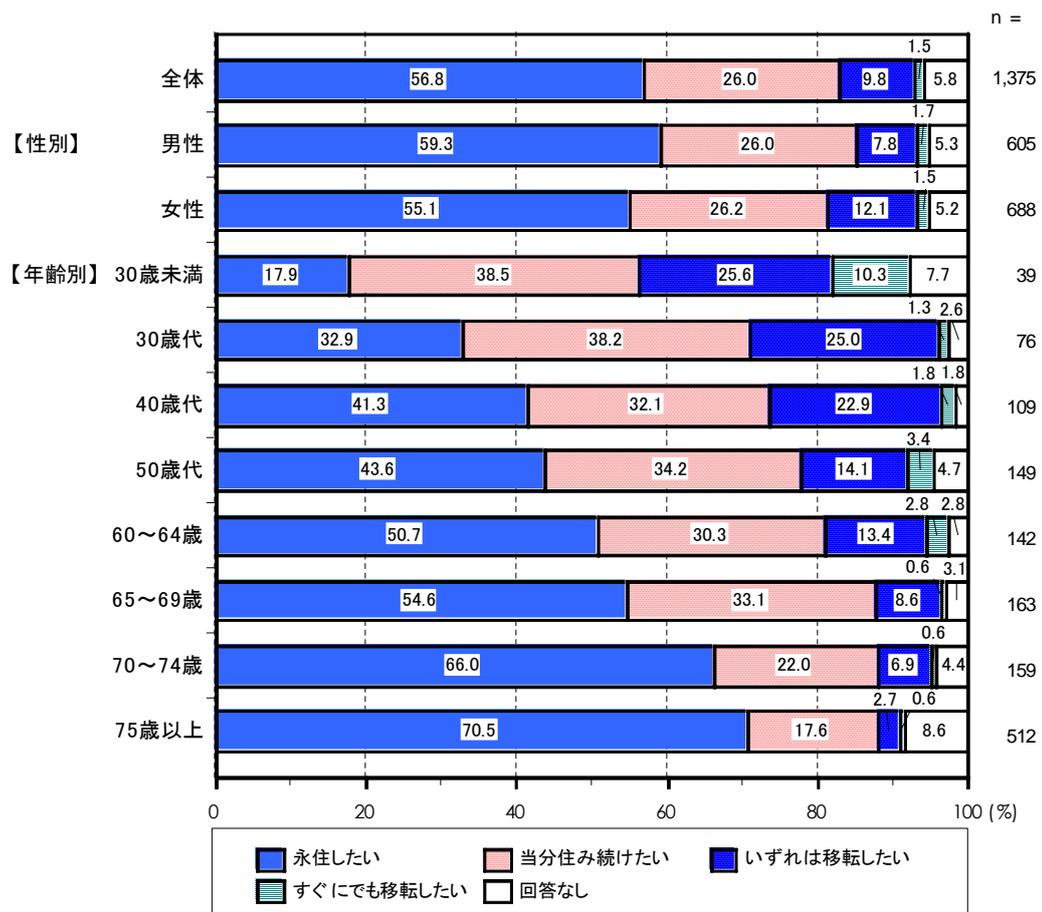


図 2-2-2 定住意向（性別・年齢別）

### 3. 定住したい理由

問9-1 問9で「1.永住したい」、「2.当分住み続けたい」と回答された方にお聞きします。

あなたが今後も住み続けたいと思う理由は何ですか。あなたのお考えに近いものを3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

#### ◆東栄町に定住したい理由は、「住み慣れていて愛着がある」、「自然環境がよい」などとなっています。

○問9で「1.永住したい」、「2.当分住み続けたい」と回答された1,139人の方の東栄町に定住したい理由は、「住み慣れていて愛着がある」が69.3%で最も割合が高くなっている。次いで「自然環境がよい」が44.2%、「人間関係がよい」が30.1%、「親類・知人が近くにいる」が25.3%と続いている。

○高齢者の回答者が多いこともあり、別の地に移転することは考えておらず、長年住み慣れた自然豊かな地域で、地域の方と一緒に住み続けたいと考えている方が多くなっている。

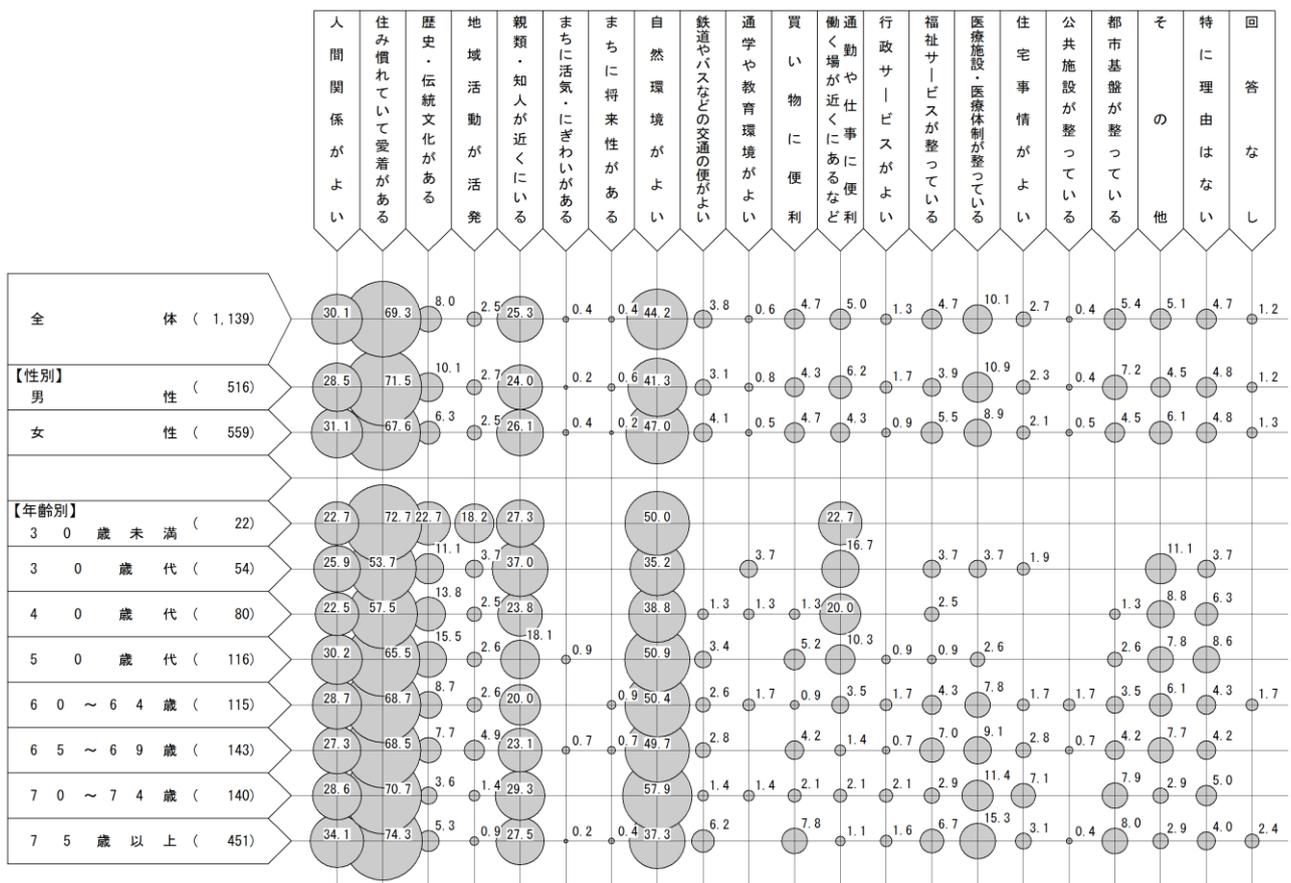


図 2-3 定住したい理由 (性別・年齢別)

## 【性別・年齢別】

---

- 性別で見ると、男女であまり変わらないが、男性では「住み慣れていて愛着がある」の割合が高く、女性では「自然環境が良い」や「人間関係がよい」、「親戚・知人が近くにいる」が男性に比べて高くなっている。
  - 年齢別で見ると、どの年代も「住み慣れていて愛着がある」の割合が高くなっているが、30歳未満では「歴史・伝統文化がある」が、30歳代では「親戚・知人が近くにいる」、「働く場所が近くにあるなど通勤や仕事に便利」が、40歳代では「働く場所が近くにあるなど通勤や仕事に便利」が、50歳代では「歴史・伝統文化がある」や「自然環境が良い」が、60～64歳と65～69歳では「自然環境が良い」が、70～74歳では「自然環境が良い」や「親戚・知人が近くにいる」が、75歳以上では「医療施設・医療体制が整っている」が相対的に高くなっている。
-

#### 4. 移転したい理由

問9-2 問9で「3.いずれは移転したい」、「4.すぐにでも移転したい」と回答された方にお聞きします。あなたが移転をしたいと思う理由は何ですか。あなたのお考えに近いものを3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

#### ◆東栄町から移転したい理由は、「買い物に不便」、「まちに将来性がない」などとなっています。

○問9で「3.いずれは移転したい」、「4.すぐにでも移転したい」と回答された156人の方の東栄町から移転したい理由は、「買い物に不便」が44.9%で最も割合が高くなっている。次いで「まちに将来性がない」が32.1%、「鉄道やバスなどの交通が不便」が27.6%、「働く場が近くにないなど通勤や仕事に不便」が27.6%と続いており、買い物や交通の利便性が悪いことや働く場がなく、将来性がないことなどを移転理由にあげている。

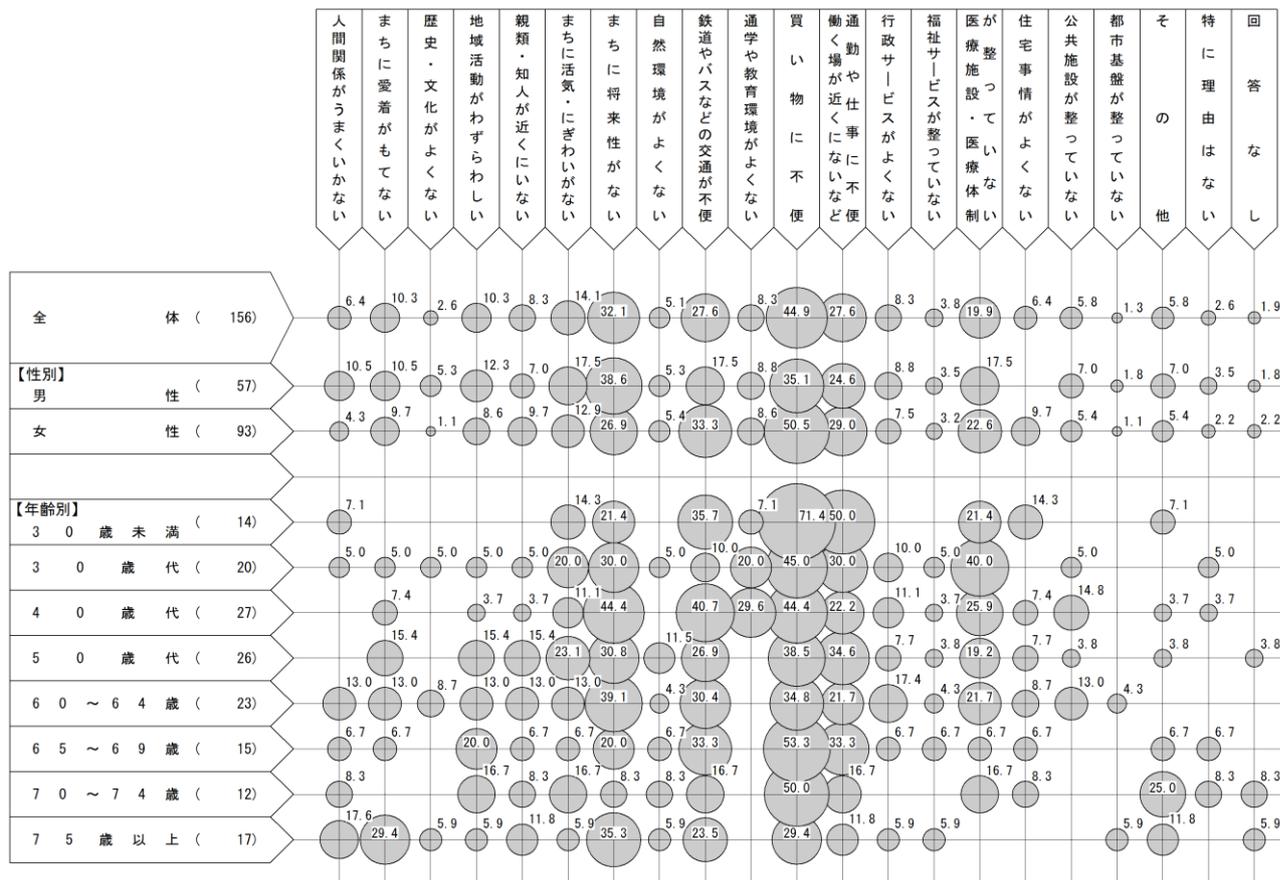


図 2-4 移転したい理由 (性別・年齢別)

## 【性別・年齢別】

---

- 性別で見ると、男性では「まちに将来性がない」の割合が高く、女性では「買い物に不便」や「鉄道やバスなどの交通が不便」の割合が高くなっている。
  - 年齢別で見ると、どの年代も「買い物に不便」の割合が高くなっているが、30歳未満では「働く場が近くがないなど通勤や仕事に不便」が、30歳代では「医療施設・医療体制が整っていない」が、40歳代では「まちに将来性がない」や「鉄道やバスなどの交通が不便」、  
「通学や教育環境がよくない」が、50歳代では「まちに活気・にぎわいがない」が、60～64歳では「まちに将来性がない」が、65～69歳では「地域活動がわずらわしい」が、75歳以上では「まちに愛着が持てない」が相対的に高くなっている。
-

## 第3章 東栄町の暮らしの満足度と今後のまちづくりの重要度

### 1. 暮らしの満足度

問10 あなたは、(1)～(48)のそれぞれの項目について、どの程度満足されていますか。

※無回答を除く回答者のうち、「満足」、「やや満足」と回答した者の合計の割合を満足度とする。  
また、「やや不満」、「不満」と回答した者の合計の割合を不満度とする。

#### ①自然・都市基盤・安全について

◆救急・消防、ごみ、下水道、交通安全対策について満足度が高くなっています。一方、公園緑地、公共交通、道路については不満度が高くなっています。

○自然・都市基盤・安全についての満足度は、「(9)救急・消防体制の整備」が81.2%で最も割合が高く、次いで「(2)家庭ごみの減量化・リサイクルの推進」が77.8%、「(3)下水道・農業集落排水などの整備」が77.7%、「(11)交通安全対策」が76.8%となっており、救急・消防、ごみ、下水道、交通安全対策についての満足度が高くなっている。

○一方、不満度については、「(4)緑地・公園などの整備」が55.1%で最も割合が高く、次いで「(8)鉄道・バスなどの公共交通の整備」が42.7%、「(7)生活道路などの一般道路の整備」が42.5%、「(6)国道・県道などの幹線道路網の整備」が40.6%となっており、公園緑地、公共交通、道路について不満度が高くなっている。

○なお、前回調査と比較して、いずれの項目も満足度が高まっており、中でも「(13)情報通信対策」は地上デジタル化に伴い、設楽町・東栄町・豊根村の3町村が共同で光ケーブルによる北設情報ネットワークの整備を行ったこともあり、満足度が30.7ポイント上昇している。

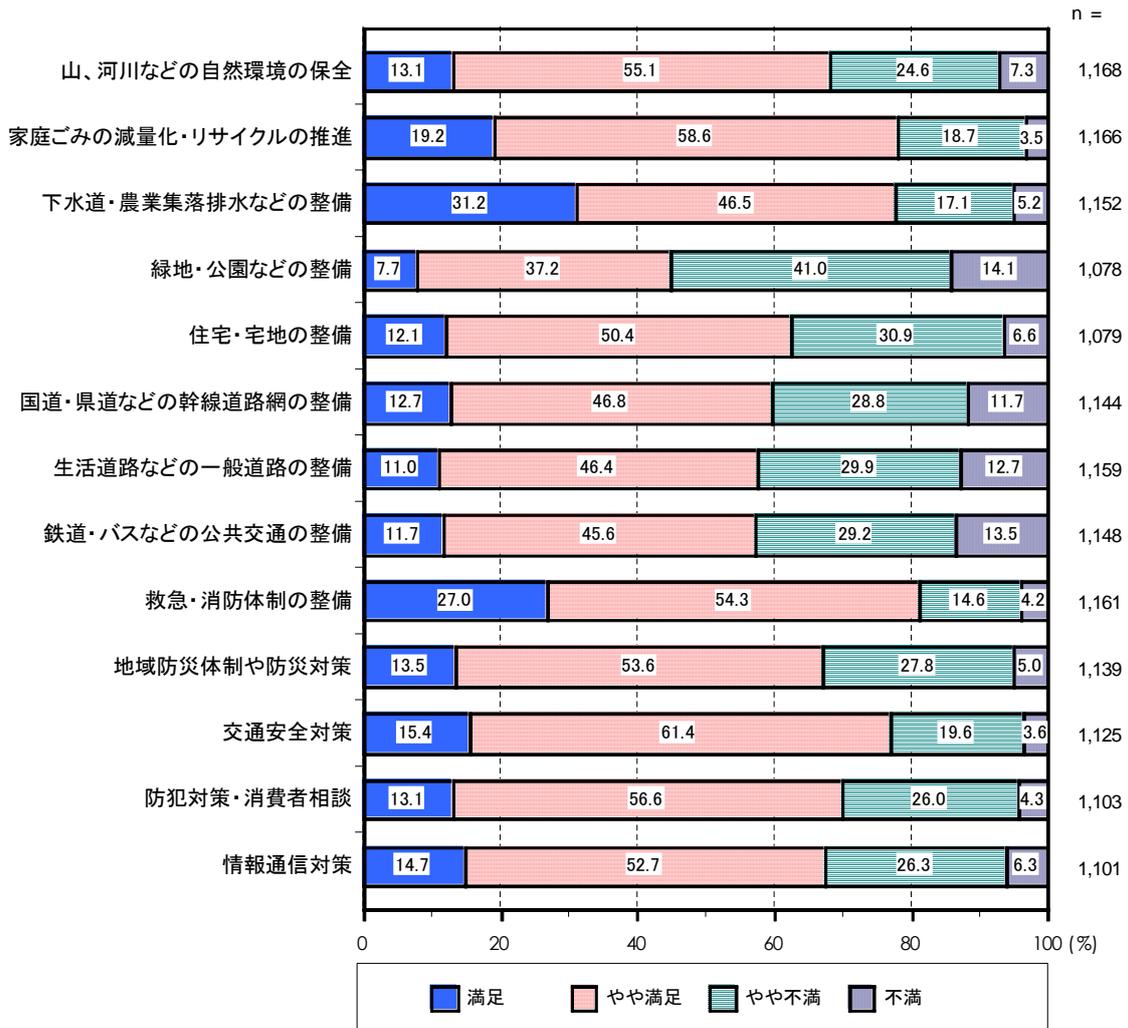


図 3-1-1 自然・都市基盤・安全についての満足度

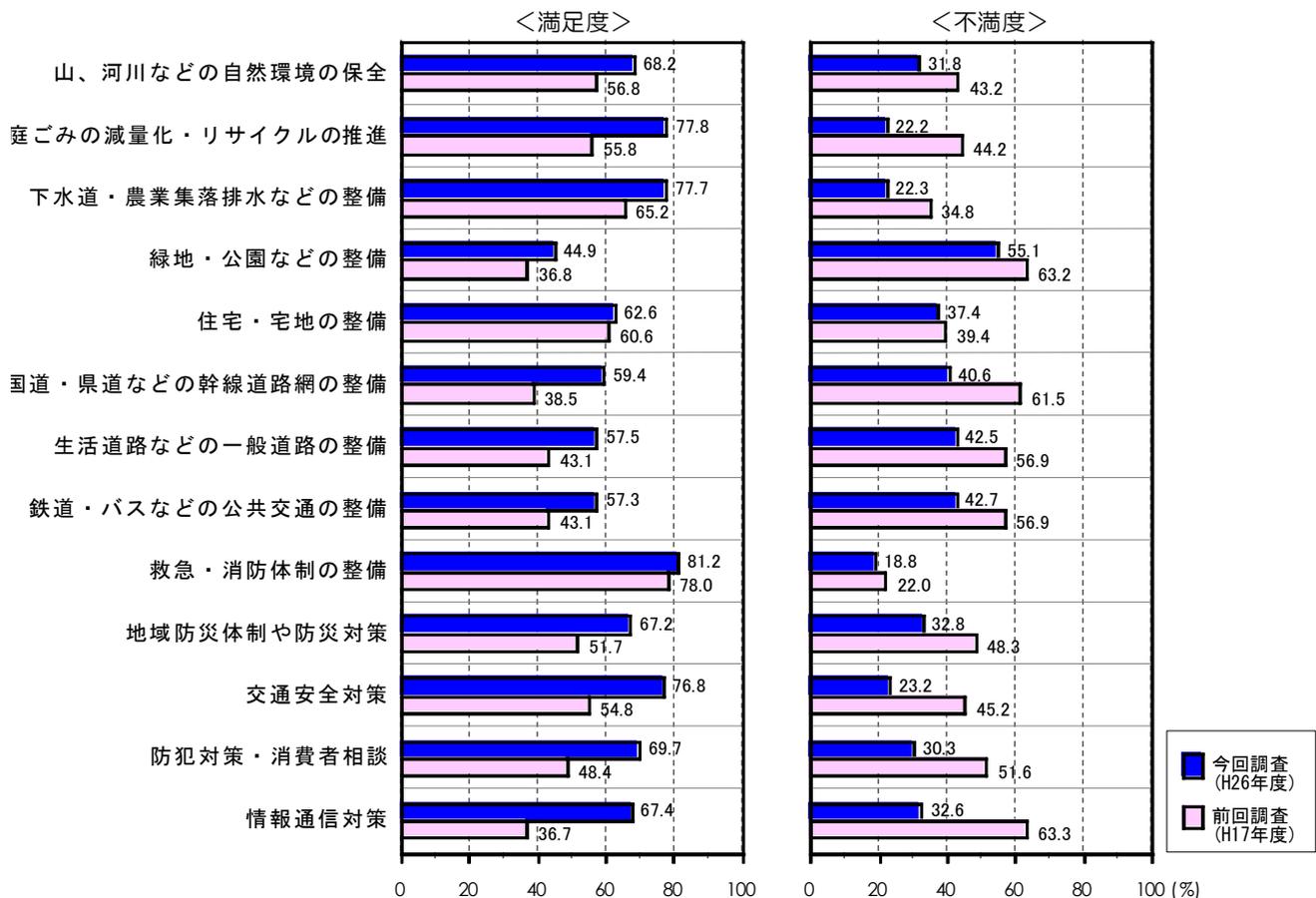


図 3-1-2 自然・都市基盤・安全についての満足度と不満度（前回調査比較）

## ②産業・交流について

◆移住・交流について満足度が高くなっていますが、一方で、雇用対策、企業誘致などについては不満度が高くなっています。

○産業・交流についての満足度は、「(20)移住・交流の施策（空き家紹介など）」が 57.2%で最も割合が高く、次いで「(21)町外など、対外的な町のPR施策」が 55.6%、「(16)漁業振興の施策（養殖、遊漁など）」が 54.2%となっており、移住・交流等に対する満足度が高くなっている。

○一方、不満度については、「(22)雇用対策」が 72.1%で最も割合が高く、次いで「(17)工業振興・企業立地の施策」が 70.0%、「(18)商業・商店街振興の施策」が 69.6%、「(14)農業振興の施策（営農、鳥獣害対策など）」が 61.5%となっており、雇用の場の確保、企業誘致、商工業の振興などについて不満度が高くなっている。

○なお、前回調査と比較して、いずれの項目も満足度が高まっており、特に「(22)雇用対策」では、満足度が2倍以上の 15.7ポイント上昇している。

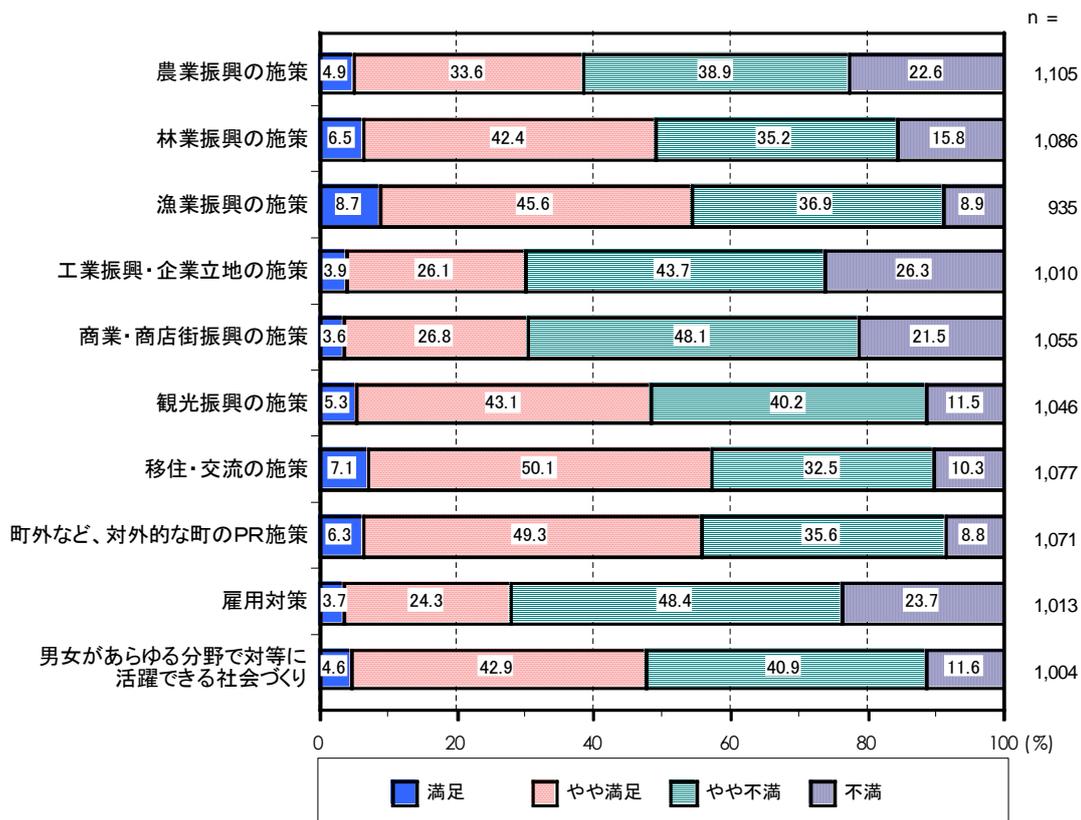
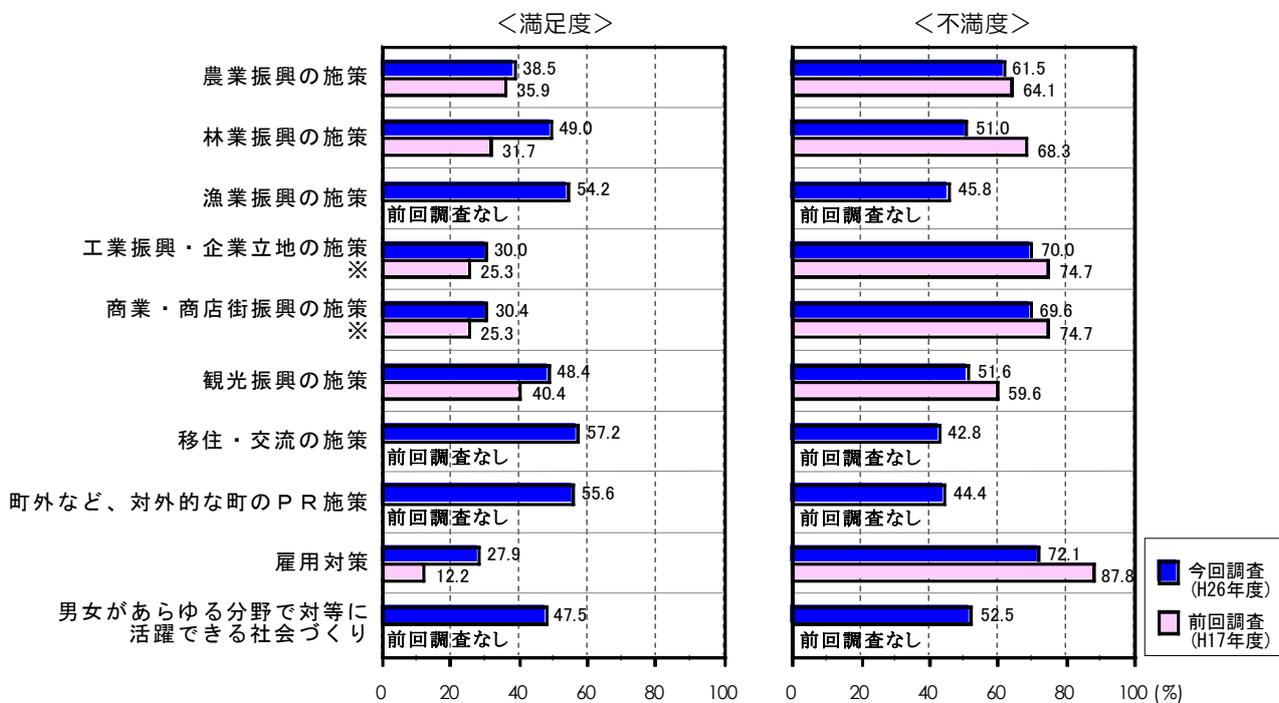


図 3-1-3 産業・交流についての満足度



※前回調査では「商工業」で1設問のため、グラフに同じ値を使用

図 3-1-4 産業・交流についての満足度と不満度（前回調査比較）

### ③医療・保健・福祉について

#### ◆健康づくりや保育サービス、地域福祉について満足度が高くなっていますが、一方で、低所得者や一人親家庭への施策については不満度が高くなっています。

○医療・保健・福祉についての満足度は、「(25)健康づくり・病気予防対策」が79.5%で最も割合が高く、次いで「(32)保育所や保育サービス」が74.1%、「(26)住民同士の助け合いによる地域福祉活動」が68.7%、「(27)介護保険サービスなどの高齢者の福祉施策」が67.4%、「(31)子育てへの支援」が65.3%「(24)地域医療・救急医療対策」が64.8%となっており、健康づくり、保育・子育てサービス、地域福祉、高齢者福祉、地域医療等に対しての満足度が高くなっている。

○一方、不満度については、「(29)低所得者への福祉施策」が45.7%で最も割合が高く、次いで「(30)一人親家庭（母子・父子）への福祉施策」が40.6%となっており、低所得者や一人親家庭への施策について不満度が高くなっている。

○なお、前回調査と比較して、いずれの項目も満足度が高まっており、特に「(32)保育所や保育サービス」は満足度が22.2ポイント上昇している。

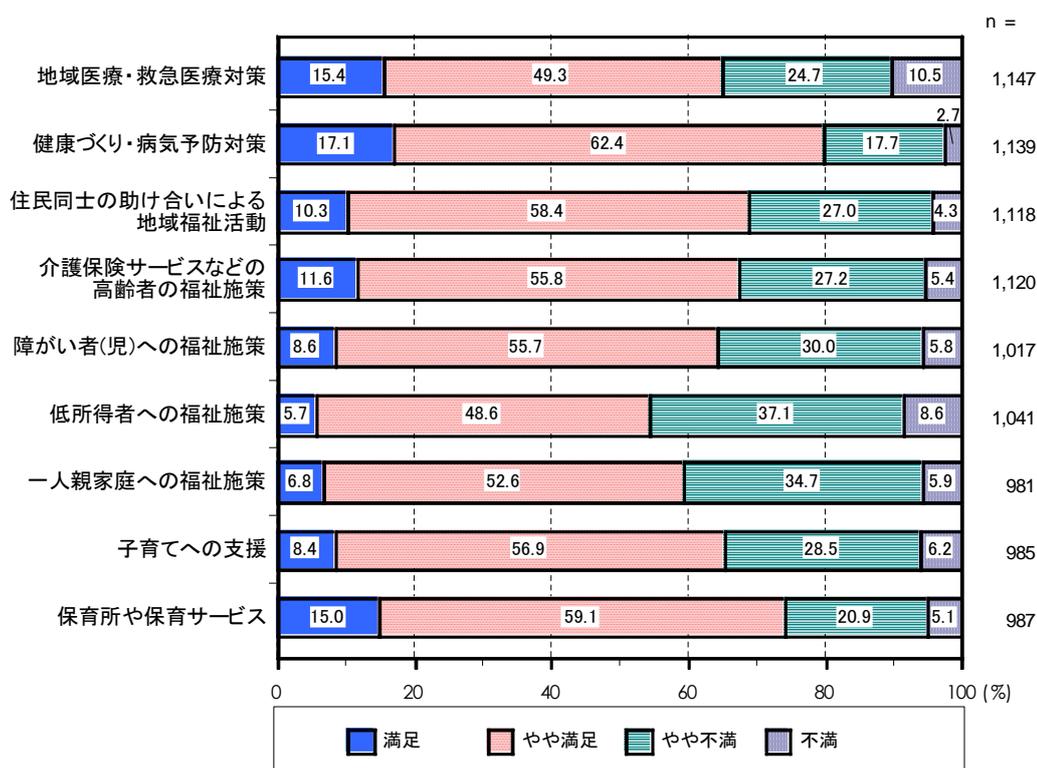
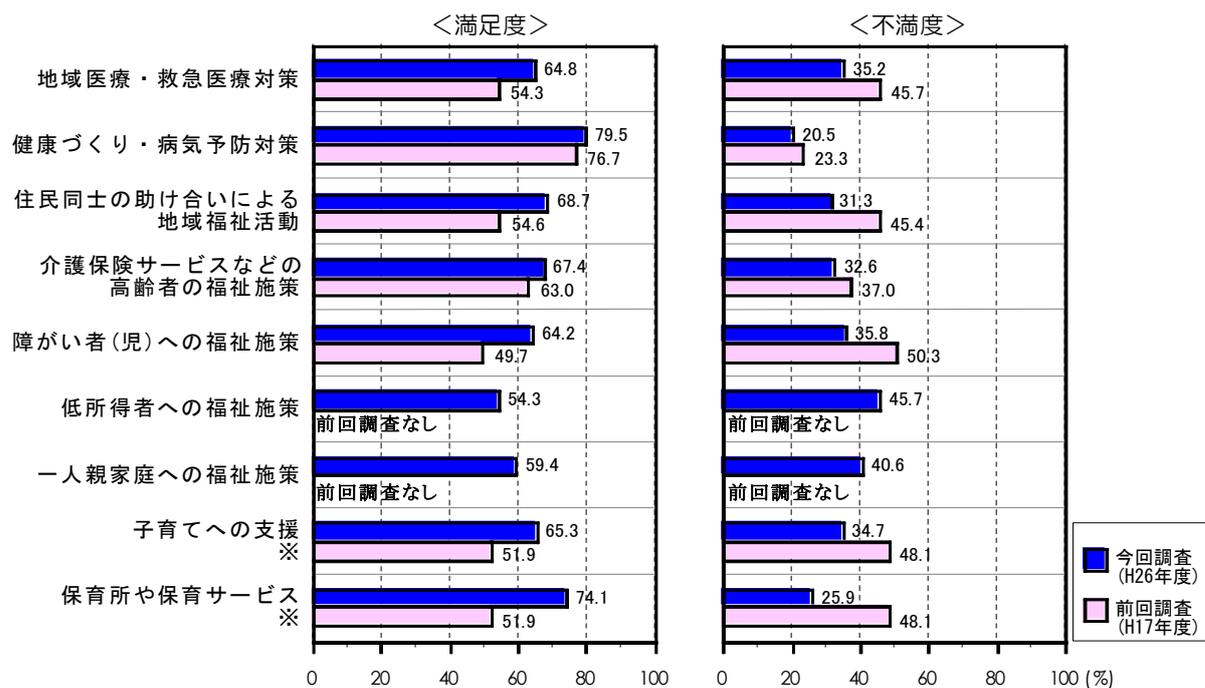


図 3-1-5 医療・保健・福祉についての満足度



※前回調査では「保育サービス・子育て環境」で1設問のため、グラフに同じ値を使用

図 3-1-6 医療・保健・福祉についての満足度と不満度（前回調査比較）

#### ④教育・文化について

◆小中学校の教育内容、伝統文化の継承などについて満足度が高くなっていますが、一方で、通学支援や文化施設については不満度が高くなっています。

○教育・文化についての満足度は、「(34)小中学校の教育内容」が80.0%で最も割合が高く、次いで「(38)文化・芸術振興、伝統文化の継承」が77.0%、「(33)生涯学習活動の施設や講座メニュー」が76.4%、「(39)青少年の健全な育成」が72.6%、「(37)スポーツ振興、スポーツ施設」が72.3%となっており、新しく校舎ができた小学校、花祭りなどの伝統文化、生涯学習活動などに対する満足度が高くなっている。

○一方、不満度については相対的に低いですが、その中でも「(35)高校生への通学支援対策」が35.9%で最も割合が高く、次いで「(36)文化施設」が34.0%となっており、町内に高校が無いことから現在行っている通学支援の内容や、町内に文化ホールのような文化施設が無いことへの不満度が高くなっている。

○なお、前回調査と比較して、いずれの項目も満足度が高まっており、特に「(34)小中学校の教育内容」は、新しい小学校になったこともあり、満足度が19.3ポイント上昇している。

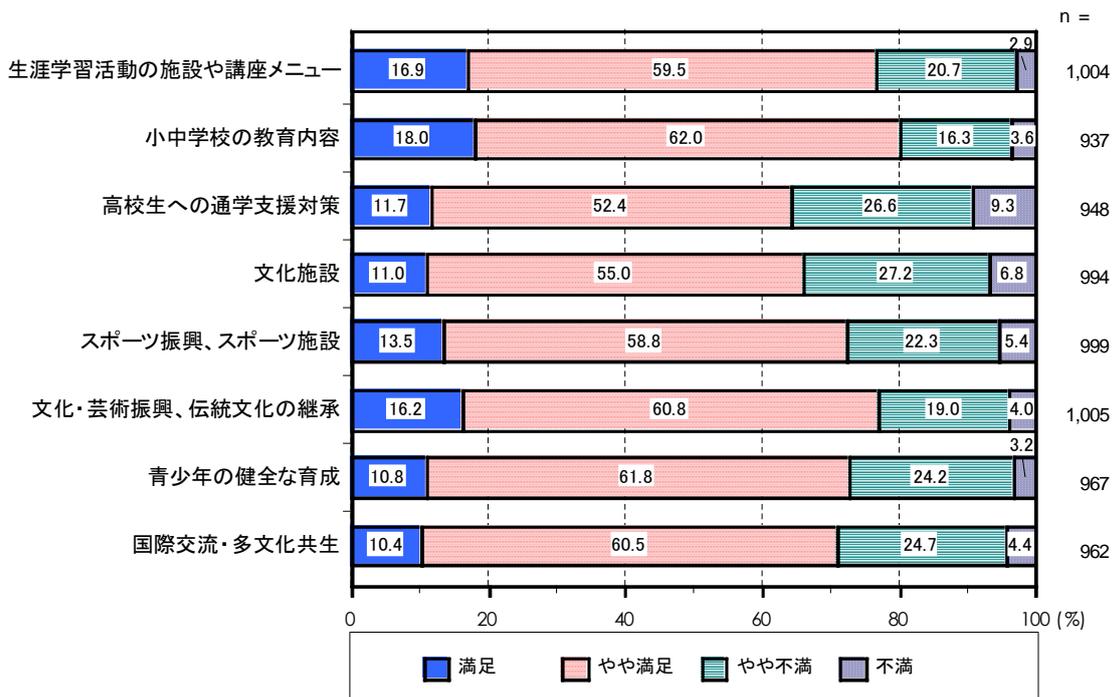


図 3-1-7 教育・文化についての満足度

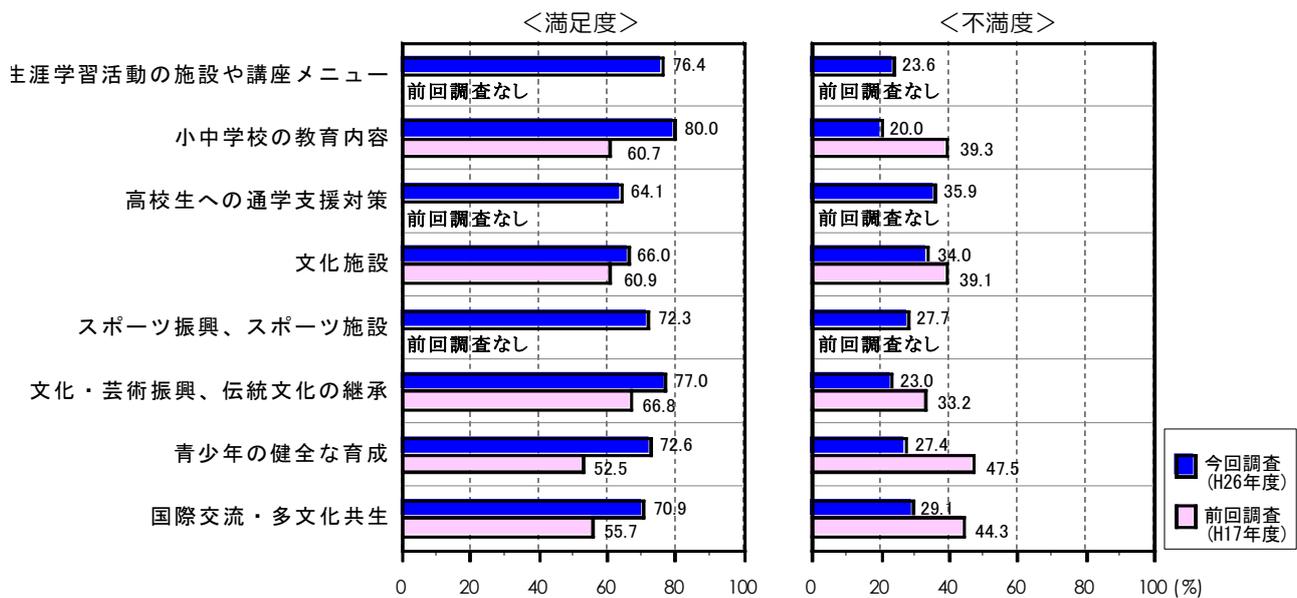


図 3-1-8 教育・文化についての満足度と不満度（前回調査比較）

⑤地域自治・行政運営について

◆広報等の情報発信、地区の集会所、地域づくり活動への支援については満足度が高くなっていますが、一方で、行財政運営や世代間交流については不満度が高くなっています。

○地域自治・行政運営についての満足度は、「(46)町の広報や情報公開」が75.4%で最も割合が高く、次いで「(43)集会所などのコミュニティ施設」が72.6%、「(48)役場の窓口などの行政サービス・職員対応」が71.9%、「(42)NPO・ボランティアへの活動支援」が71.1%、「(41)地域づくり活動への支援」が70.8%となっており、役場による広報等の情報発信や窓口サービス、各地区の集会所や地域づくり活動への支援などについて満足度が高くなっている。

○一方、不満度については「(47)効率的な行政や財政の運営」が43.7%で最も割合が高く、次いで「(44)子どもからお年寄りの世代間の交流」が40.4%、「(45)町政への住民参加」が40.0%となっており、行財政運営や世代間交流について不満度が高くなっている。

○なお、前回調査と比較して、「(42)NPO・ボランティアへの活動支援」が16.5ポイント、「(41)地域づくり活動への支援」が12.1ポイント、満足度が上昇しているが、「(48)役場の窓口などの行政サービス・職員対応」は、0.1ポイント減少している。

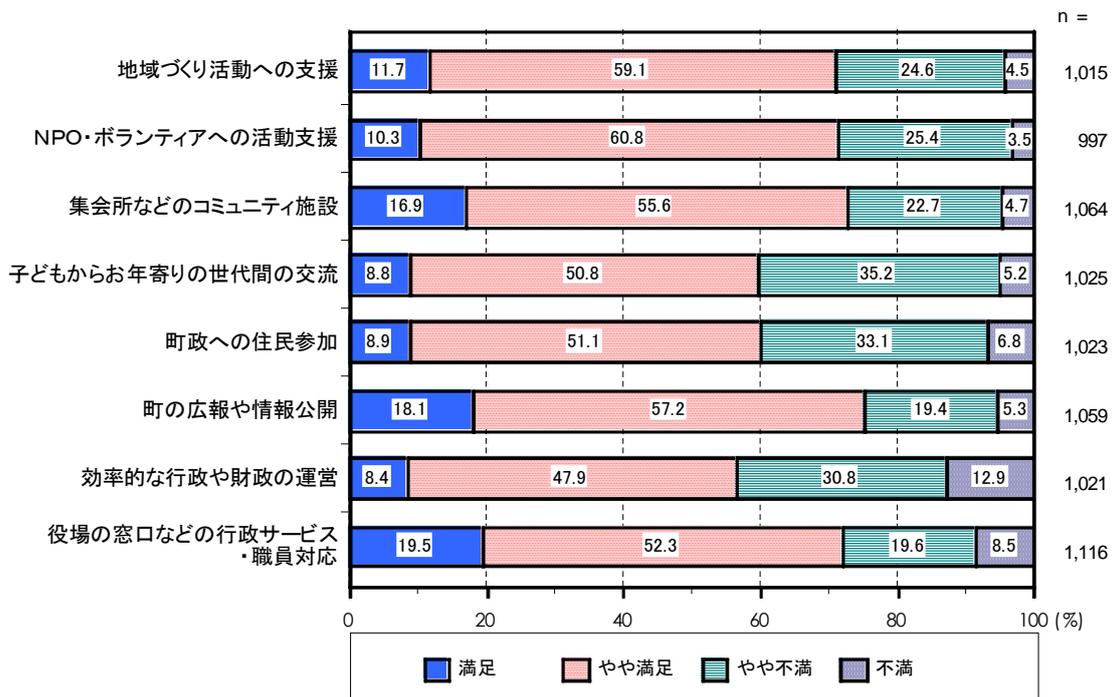


図 3-1-9 地域自治・行政運営についての満足度

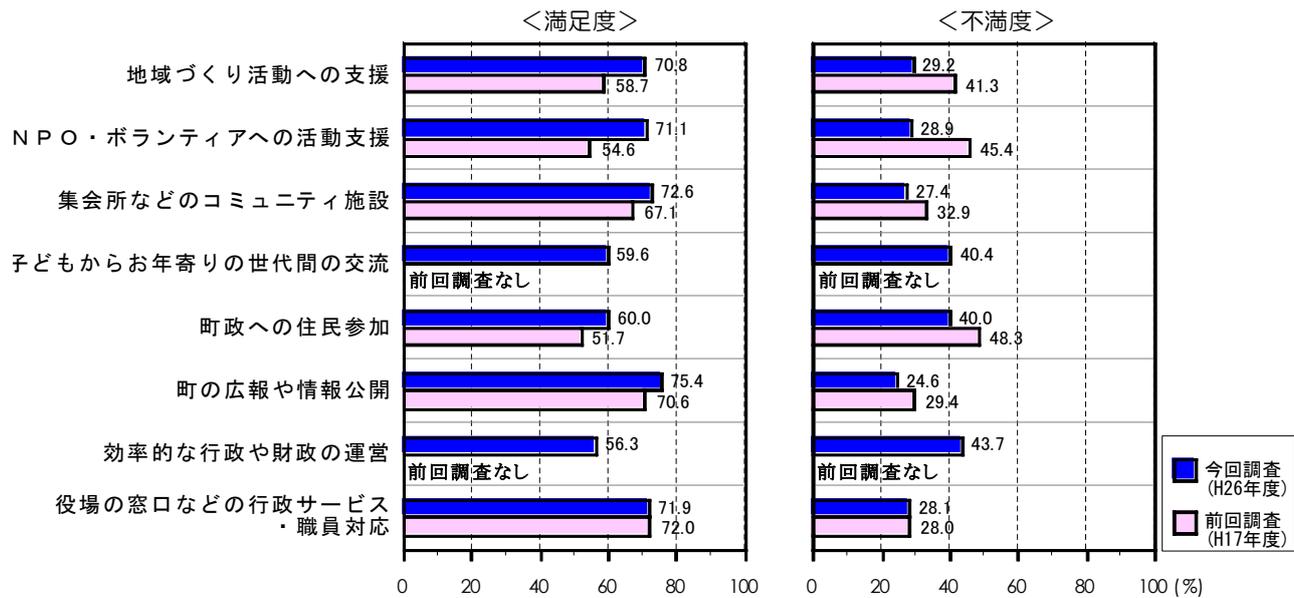


図 3-1-10 地域自治・行政運営についての満足度と不満度（前回調査比較）

## 2. まちづくりの重要度

問10 あなたは、(1)～(48)のそれぞれの項目について、今後の行政を進めるにあたって、どれくらい重要であると思われますか。

※無回答を除く回答者のうち、「重要」、「やや重要」と回答した者の合計の割合を重要度とする。

### ①自然・都市基盤・安全について

◆人の命や財産を守る救急・消防、防災対策や、道路に対して重要度が高くなっています。

○自然・都市基盤・安全についての重要度は、全体的に重要度が高く、なかでも「(9)救急・消防体制の整備」が96.3%で最も割合が高く、次いで「(10)地域防災体制や防災対策」が95.7%、「(7)生活道路などの一般道路の整備」が94.8%、「(6)国道・県道などの幹線道路網の整備」が93.8%となっており、人の命や財産を守る救急・消防、防災対策や、道路に対して重要度が高くなっている。

○なお、前回調査と比較して、重要度が「(13)情報通信対策」で16.4ポイント、「(5)住宅・宅地の整備」で12.9ポイント上昇している。

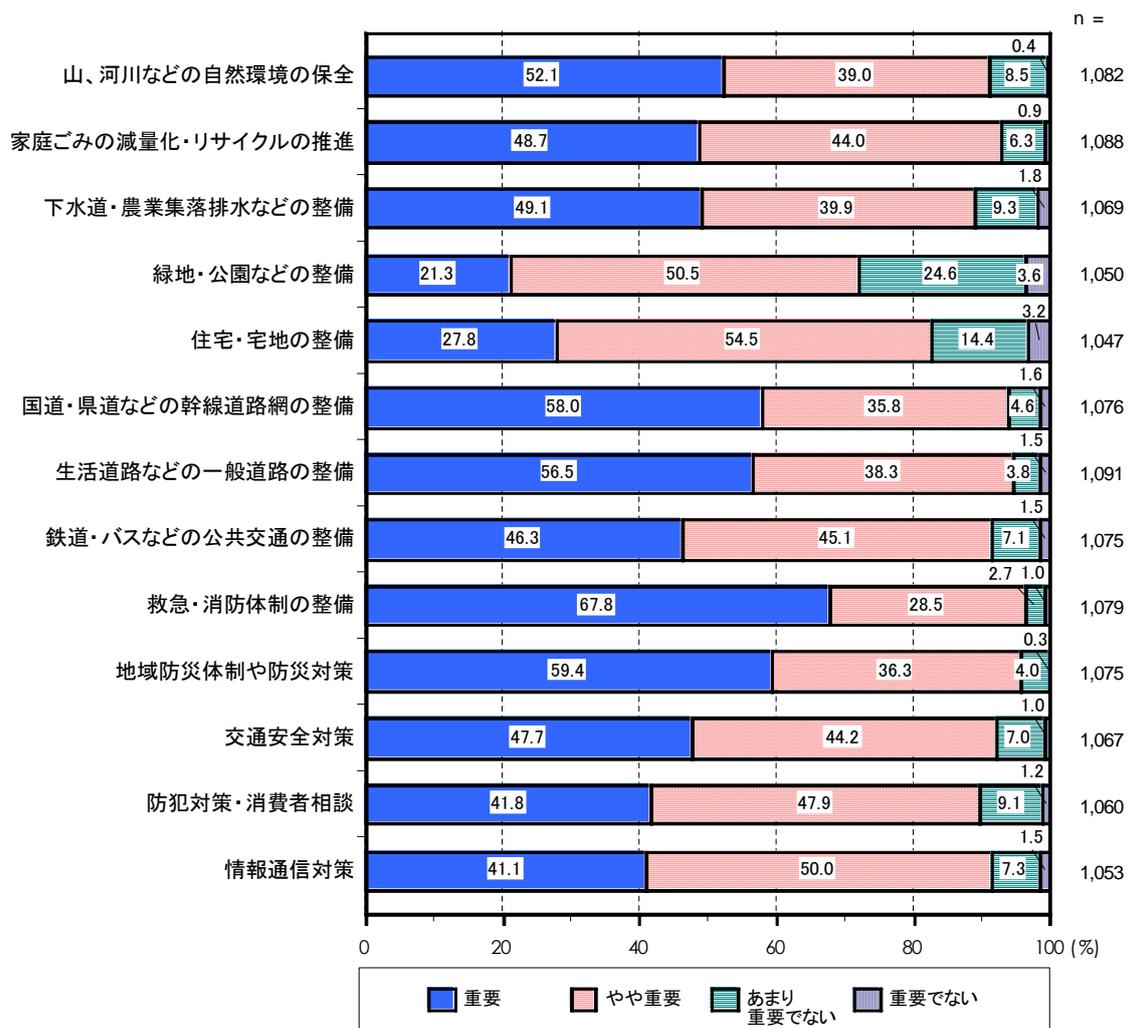


図3-2-1 自然・都市基盤・安全についての重要度

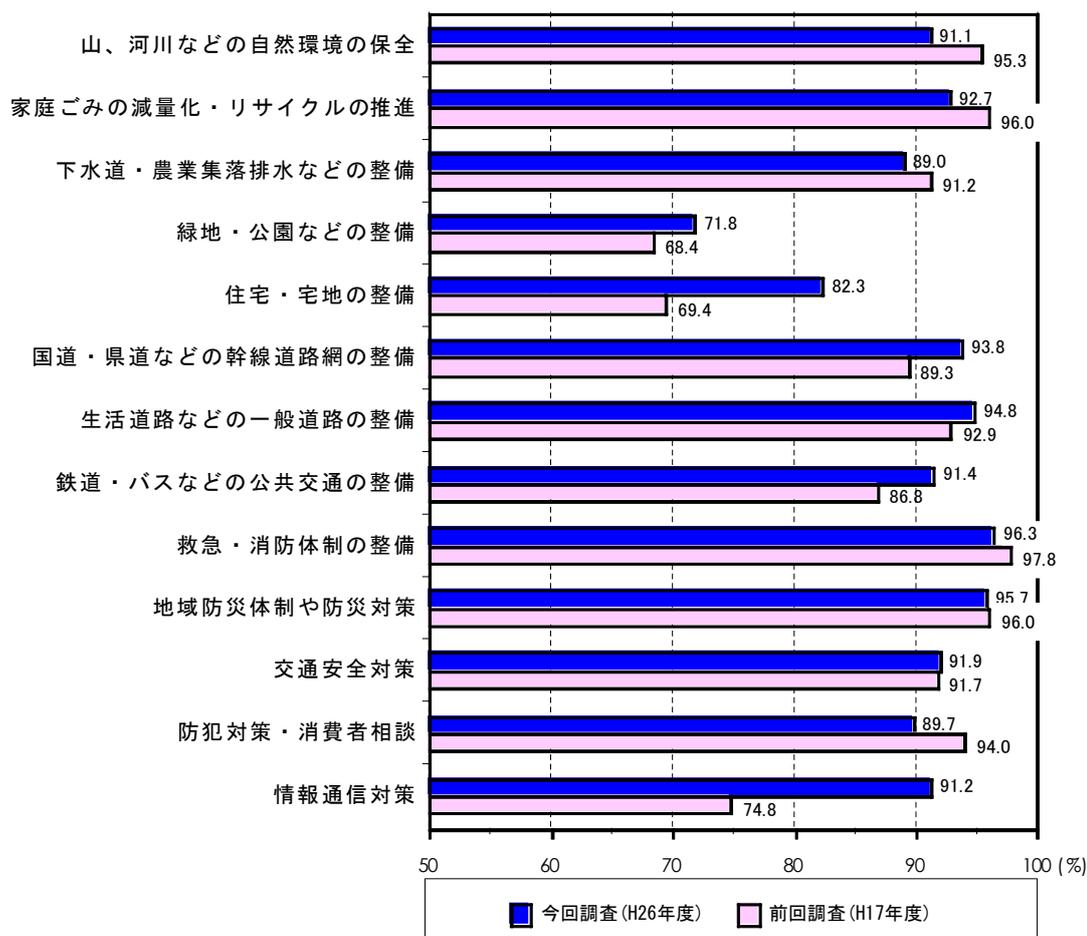


図 3-2-2 自然・都市基盤・安全についての重要度（前回調査比較）

## ②産業・交流について

◆定住対策となる雇用の場を確保すること、耕作放棄地や鳥獣害が問題となっている農業の振興、買い物難民等にならないための商業振興などに対して重要度が高くなっています。

○産業・交流についての重要度は、「(22)雇用対策」が 96.2% で最も割合が高く、次いで「(14)農業振興の施策（営農、鳥獣害対策）」が 90.8%、「(18)商業・商店街振興の施策」が 90.4% となっており、定住対策となる雇用の場を確保すること、耕作放棄地や鳥獣害が問題となっている農業の振興、買い物難民等にならないための商業振興などに対して重要度が高くなっている。

○なお、前回調査と比較して、いずれの項目も重要度が高まっており、特に「(14)農業振興の施策」は、耕作放棄地の増加や鳥獣害の拡大などもあり、重要度が 12.8 ポイント上昇している。

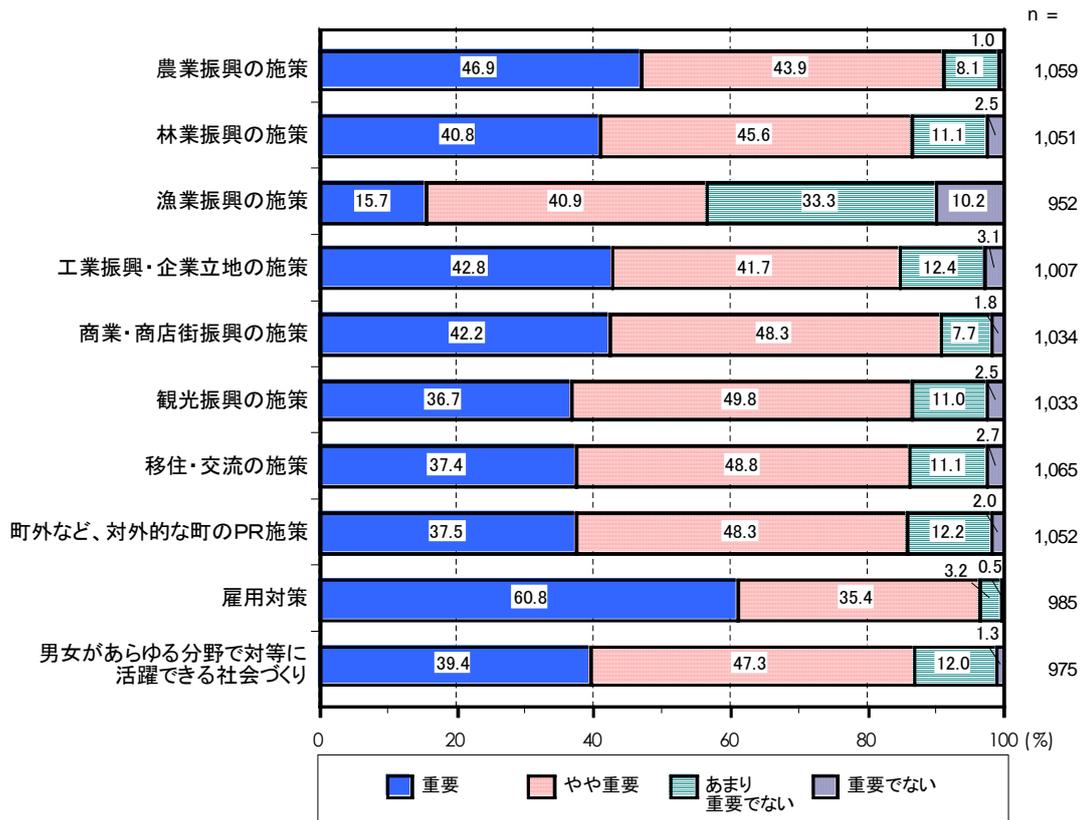
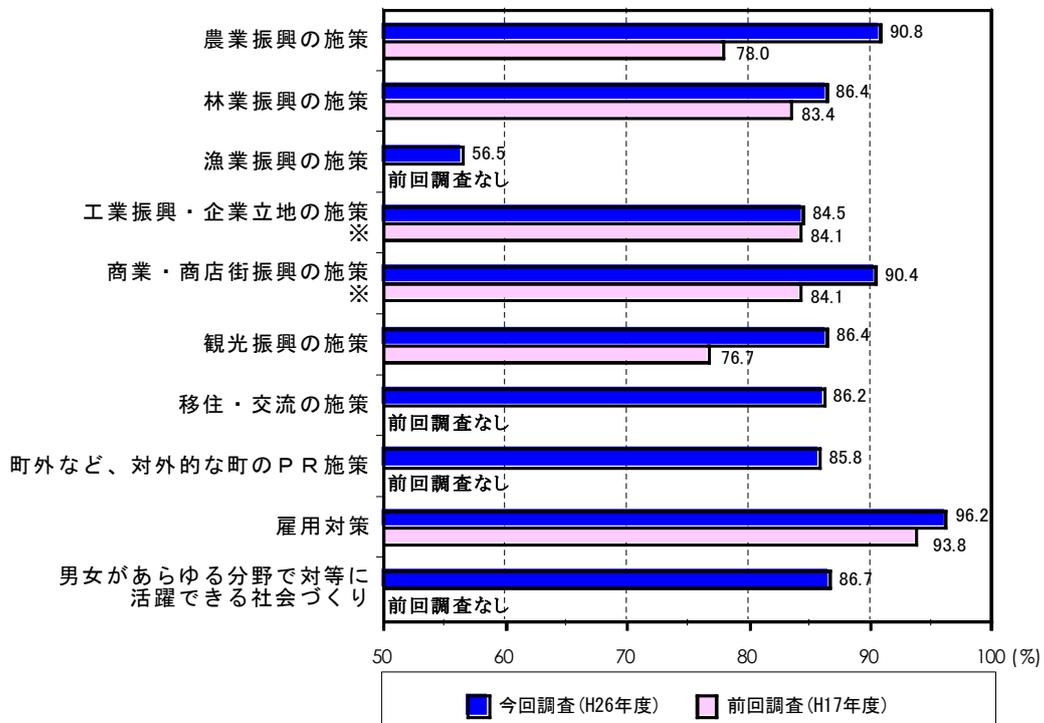


図 3-2-3 産業・交流についての重要度



※前回調査では「商工業」で1設問のため、グラフに同じ値を使用

図 3-2-4 産業・交流についての重要度（前回調査比較）

### ③医療・保健・福祉について

#### ◆医療や健康づくり、高齢者サービス、保育サービスに対して重要度が高くなっています。

○医療・保健・福祉についての重要度は、全体的に重要度が高く、なかでも「(24) 地域医療・救急医療対策」が98.0%で最も割合が高く、次いで「(25) 健康づくり・病気予防対策」が95.4%、「(27) 介護保険サービスなどの高齢者の福祉施策」が97.4%、「(32) 保育所や保育サービス」が95.0%となっており、医療や健康づくり、高齢者サービス、保育サービスに対して重要度が高くなっている。

○なお、前回調査と比較して、「(27) 介護保険サービスなどの高齢者の福祉施策」が2.3ポイント、「(26) 住民同士の助け合いによる地域福祉活動」が0.5ポイント上昇したものの、他の項目は全てわずかであるが、重要度が低下している。

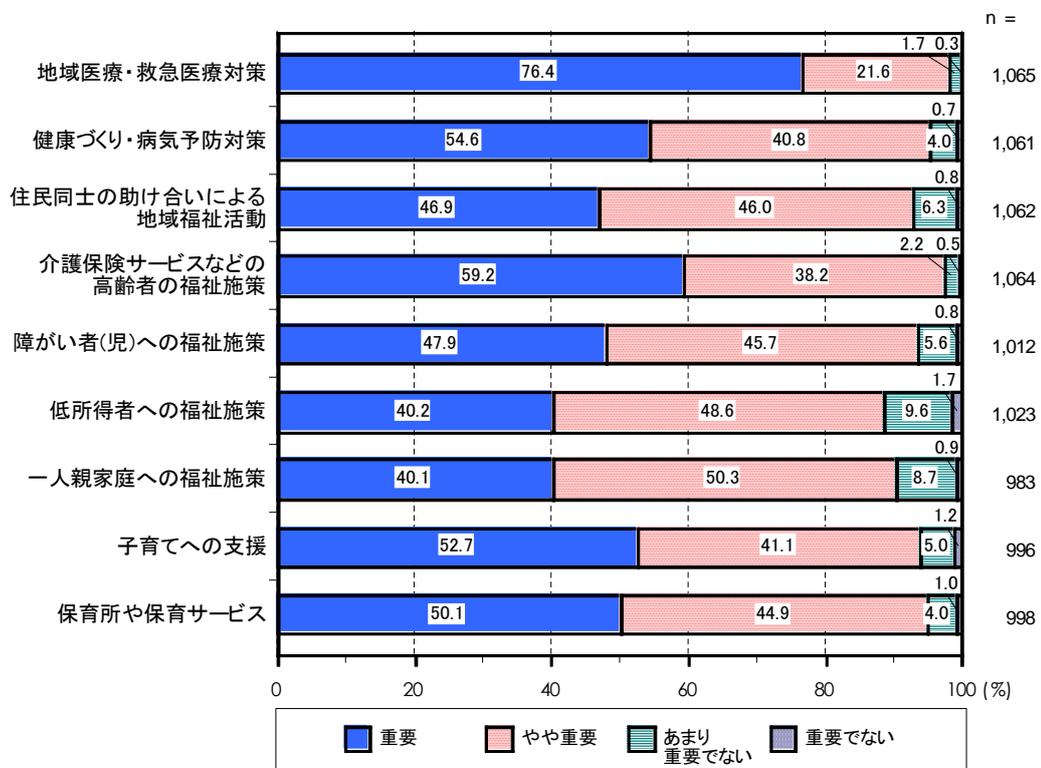
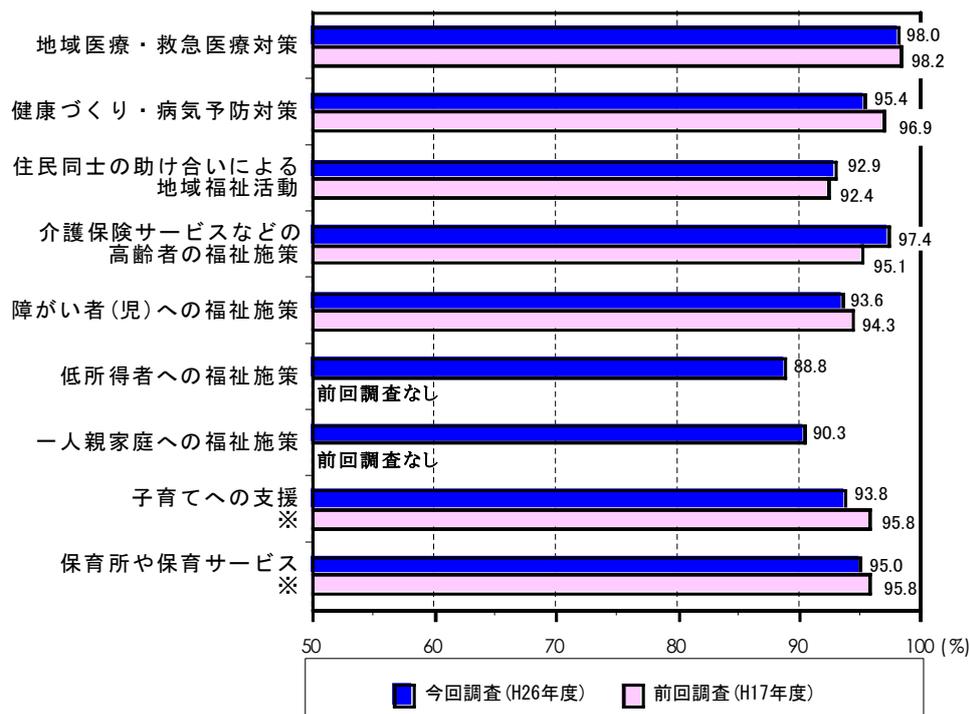


図 3-2-5 医療・保健・福祉についての重要度



※前回調査では「保育サービス・子育て環境」で1設問のため、グラフに同じ値を使用

図 3-2-6 医療・保健・福祉についての重要度（前回調査比較）

#### ④教育・文化について

◆子どもへの教育や通学支援など、子どもを取り巻く環境に対して重要度が高くなっています。

○教育・文化についての重要度は、「(34)小中学校の教育内容」が94.6%で最も割合が高く、次いで「(35)高校生への通学支援対策」が90.8%、「(39)青少年の健全な育成」が89.3%となっており、子どもへの教育や通学支援など、子どもを取り巻く環境に対して重要度が高くなっている。

○なお、前回調査と比較して、「(34)小中学校の教育内容」が0.1ポイント低下したが、残りの項目は全て重要度が高まっており、特に「(38)文化・芸術振興、伝統文化の継承」は重要度が16.4ポイント上昇している。

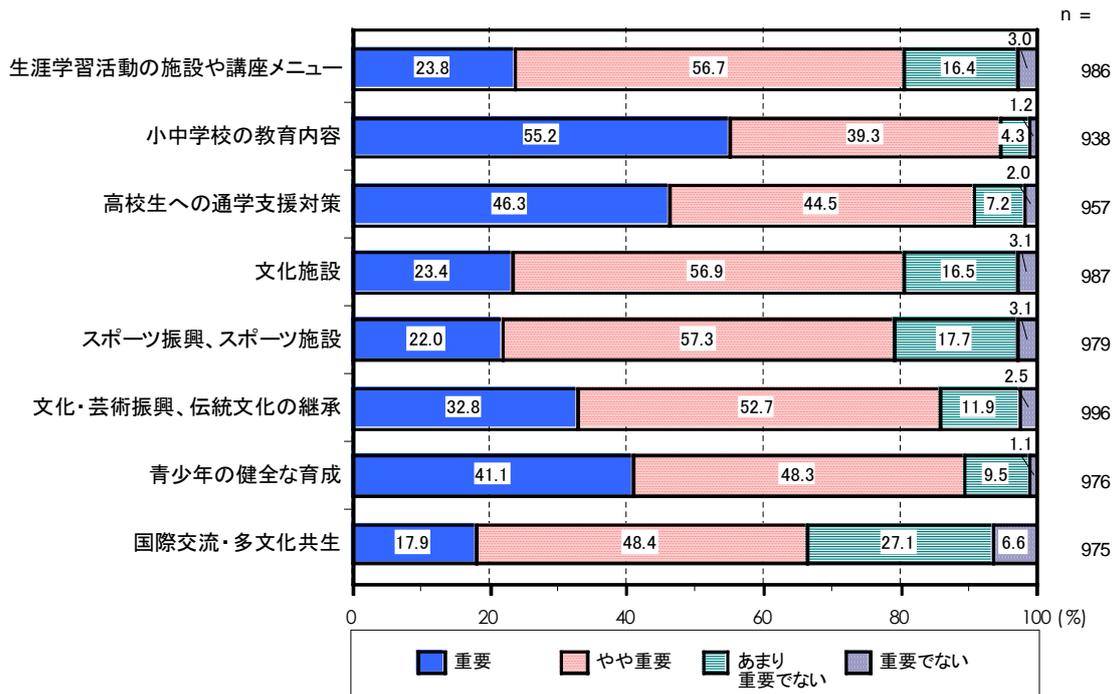


図 3-2-7 教育・文化についての重要度

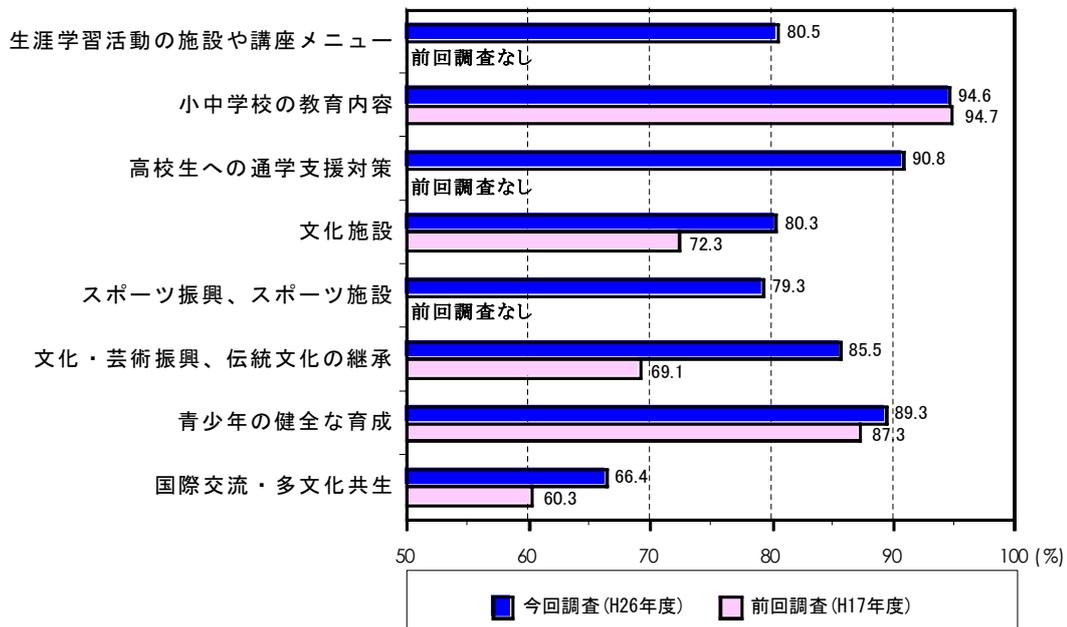


図 3-2-8 教育・文化についての重要度（前回調査比較）

⑤地域自治・行政運営について

◆役場における行政サービス、行財政運営、広報・情報公開に対して重要度が高くなっています。

○地域自治・行政運営についての重要度は、「(48)役場の窓口などの行政サービス・職員対応」が94.3%で最も割合が高く、次いで「(47)効率的な行政や財政の運営」が93.5%、「(46)町の広報や情報公開」が90.5となっており、役場における行政サービス、行財政運営、広報・情報公開に対して重要度が高くなっている。

○なお、前回調査と比較して、「(43)集会所などのコミュニティ施設」が11.7ポイント、「(41)地域づくり活動への支援」が7.4ポイント、「(42)NPO・ボランティアへの活動支援」が6.4ポイント重要度が上昇している。

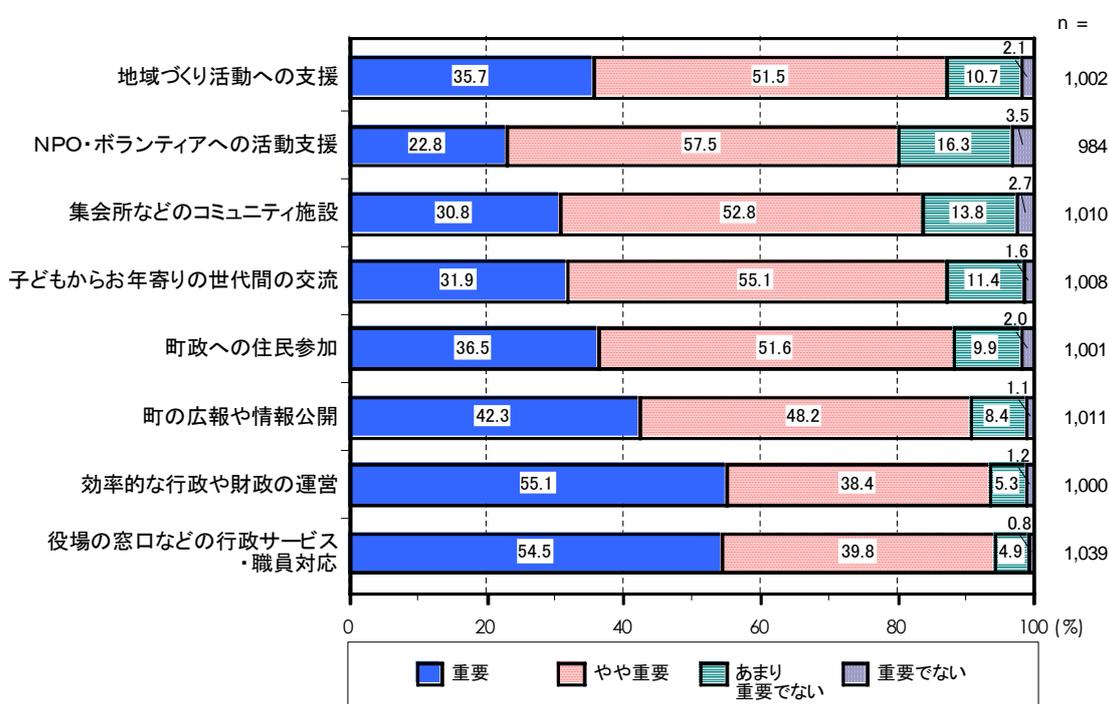


図 3-2-9 地域自治・行政運営についての重要度

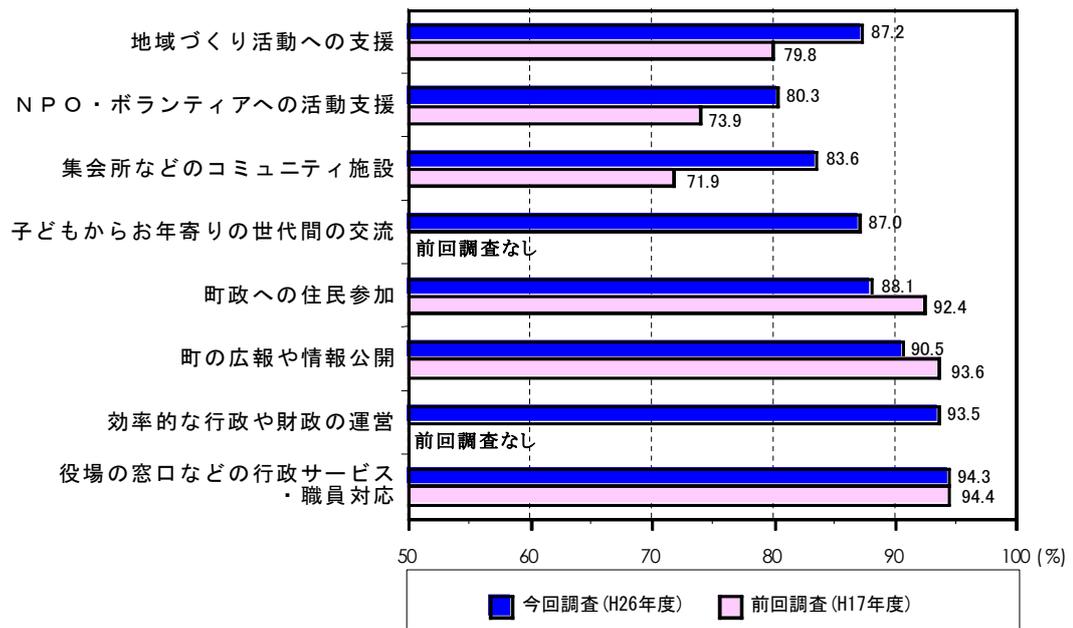


図 3-2-10 地域自治・行政運営についての重要度（前回調査比較）

### 3. 満足度と重要度の関係

※48 項目ごとに「満足」を＋2点、「やや満足」を＋1点、「やや不満」を－1点、「不満」を－2点と、4段階評価で得点を付け、無回答を除く回答のあった票数を母数として点数換算し、満足度の平均の評点を算出した。

また、同様に「重要」を＋2点、「やや重要」を＋1点、「あまり重要でない」を－1点、「重要でない」を－2点と、4段階評価で得点を付け、無回答を除く回答のあった票数を母数として点数換算し、重要度の平均の評点を算出した。

#### ①満足度の評点について

##### ◆救急・消防体制の整備の評点が高く、雇用対策などの評点が低くなっています。

○48 項目のうち、プラスの評点が40項目、マイナスの評点が8項目となり、全体的に満足度は高くなっている。

○最も満足度の評点が高い項目が「(9)救急・消防体制の整備」(0.85点)で、次いで「(3)下水道・農業集落排水などの整備」(0.81点)、「(34)小中学校の教育内容」(0.74点)となっている。

○一方、最も満足度の評点が低い項目が「(22)雇用対策」(-0.64点)で、次いで「(17)工業振興・企業立地の施策」(-0.62点)、「(18)商業・商店街振興の施策」(-0.57点)、「(14)農業振興の施策」(-0.41点)と、産業面の施策となっている。

○なお、前回調査と同様に、「救急・消防体制の整備」の評点が高く、また、「雇用対策」などの評点が低い結果となっている。

表 3-3-1 満足度の点数換算

	項目	満足度評点		増減	
		今回調査 (H26年度)	前回調査 (H17年度)	H26-H17	
自然・都市基盤・安全	1	山、河川などの自然環境の保全	0.42	0.16	0.26
	2	家庭ごみの減量化・リサイクルの推進	0.71	0.16	0.55
	3	下水道・農業集落排水などの整備	0.81	0.39	0.42
	4	緑地・公園などの整備	-0.17	-0.46	0.29
	5	住宅・宅地の整備	0.31	0.23	0.08
	6	国道・県道などの幹線道路網の整備	0.20	-0.38	0.58
	7	生活道路などの一般道路の整備	0.13	-0.23	0.36
	8	鉄道・バスなどの公共交通の整備	0.13	-0.23	0.36
	9	救急・消防体制の整備	0.85	0.76	0.09
	10	地域防災体制や防災対策	0.43	0.03	0.40
	11	交通安全対策	0.65	0.10	0.55
	12	防犯対策・消費者相談	0.48	-0.04	0.52
	13	情報通信対策	0.43	-0.42	0.85
産業・交流	14	農業振興の施策	-0.41	-0.43	0.02
	15	林業振興の施策	-0.11	-0.59	0.48
	16	漁業振興の施策	0.08	前回調査なし	-
	17	工業振興・企業立地の施策	-0.62	-0.70	0.08
	18	商業・商店街振興の施策	-0.57		-0.57
	19	観光振興の施策	-0.09	-0.31	0.22
	20	移住・交流の施策	0.11	前回調査なし	-
	21	町外など、対外的な町のPR施策	0.09	前回調査なし	-
	22	雇用対策	-0.64	-1.24	0.60
	23	男女があらゆる分野で対等に活躍できる社会づくり	-0.12	前回調査なし	-
医療・保健・福祉	24	地域医療・救急医療対策	0.34	0.08	0.26
	25	健康づくり・病気予防対策	0.73	0.73	0.00
	26	住民同士の助け合いによる地域福祉活動	0.43	0.12	0.31
	27	介護保険サービスなどの高齢者の福祉施策	0.41	0.32	0.09
	28	障がい者（児）への福祉施策	0.31	-0.01	0.32
	29	低所得者への福祉施策	0.06	前回調査なし	-
	30	一人親家庭（母子・父子）への福祉施策	0.20	前回調査なし	-
	31	子育てへの支援	0.33	-0.02	0.35
	32	保育所や保育サービス	0.58		0.58
	教育・文化	33	生涯学習活動の施設や講座メニュー	0.67	0.36
			0.44		-0.44
34		小中学校の教育内容	0.74	0.21	0.53
35		高校生への通学支援対策	0.31	前回調査なし	-
36		文化施設	0.36	0.25	0.11
37		スポーツ振興、スポーツ施設	0.53	0.38	0.15
				0.45	-0.45
38		文化・芸術振興、伝統文化の継承	0.66	0.39	0.27
39	青少年の健全な育成	0.53	0.04	0.49	
40	国際交流・多文化共生	0.48	0.11	0.37	
地域自治・行政運営	41	地域づくり活動への支援	0.49	0.20	0.29
	42	NPO・ボランティアへの活動支援	0.49	0.10	0.39
	43	集会所などのコミュニティ施設	0.57	0.44	0.13
	44	子どもからお年寄りの世代間の交流	0.23	前回調査なし	-
	45	町政への住民参加	0.22	0.00	0.22
	46	町の広報や情報公開	0.64	0.54	0.10
	47	効率的な行政や財政の運営	0.08	前回調査なし	-
	48	役場の窓口などの行政サービス・職員対応	0.55	0.58	-0.03

## ②重要度の評点について

◆**地域医療・救急医療対策や救急・消防体制の整備、雇用対策の評点が高く、漁業振興や国際交流・多文化共生などの評点が低くなっています。**

---

○48項目のうち、プラスの評点が48項目全てでどれも重要度が高くなっている。

○最も重要度の評点が高い項目が「(24)地域医療・救急医療対策」(1.72点)で、次いで「(9)救急・消防体制の整備」(1.59点)、「(22)雇用対策」(1.53点)、「(27)介護保険サービスなどの高齢者の福祉施策」(1.53点)、「(10)地域防災体制や防災対策」(1.51点)となっている。

○一方、最も重要度の評点が低い項目が「(16)漁業振興の施策(養殖、遊漁など)」(0.18点)で、次いで「(40)国際交流・多文化共生」(0.44点)、「(4)緑地・公園などの整備」(0.61点)となっている。

○なお、前回調査と同様に「地域医療・救急医療対策」や「救急・消防体制の整備」、「雇用対策」の評点が高く、「国際交流・多文化共生」などの評点が低い結果となっている。

---

表 3-3-2 重要度の点数換算

	項目	重要度評点		増減	
		今回調査 (H26年度)	前回調査 (H17年度)	H26-H17	
自然・都市基盤・安全	1	山、河川などの自然環境の保全	1.34	1.33	0.01
	2	家庭ごみの減量化・リサイクルの推進	1.33	1.31	0.02
	3	下水道・農業集落排水などの整備	1.25	1.10	0.15
	4	緑地・公園などの整備	0.61	0.44	0.17
	5	住宅・宅地の整備	0.89	0.45	0.44
	6	国道・県道などの幹線道路網の整備	1.44	1.09	0.35
	7	生活道路などの一般道路の整備	1.45	1.14	0.31
	8	鉄道・バスなどの公共交通の整備	1.28	0.99	0.29
	9	救急・消防体制の整備	1.59	1.50	0.09
	10	地域防災体制や防災対策	1.51	1.34	0.17
	11	交通安全対策	1.31	1.08	0.23
	12	防犯対策・消費者相談	1.20	1.18	0.02
	13	情報通信対策	1.22	0.64	0.58
産業・交流	14	農業振興の施策	1.28	0.72	0.56
	15	林業振興の施策	1.11	0.89	0.22
	16	漁業振興の施策	0.18	前回調査なし	-
	17	工業振興・企業立地の施策	1.09	0.89	0.20
	18	商業・商店街振興の施策	1.21		1.21
	19	観光振興の施策	1.07	0.67	0.40
	20	移住・交流の施策	1.07	前回調査なし	-
	21	町外など、対外的な町のPR施策	1.07	前回調査なし	-
	22	雇用対策	1.53	1.37	0.16
	23	男女があらゆる分野で対等に活躍できる社会づくり	1.11	前回調査なし	-
医療・保健・福祉	24	地域医療・救急医療対策	1.72	1.37	0.35
	25	健康づくり・病気予防対策	1.45	1.25	0.20
	26	住民同士の助け合いによる地域福祉活動	1.32	1.06	0.26
	27	介護保険サービスなどの高齢者の福祉施策	1.53	1.20	0.33
	28	障がい者（児）への福祉施策	1.34	1.09	0.25
	29	低所得者への福祉施策	1.16	前回調査なし	-
	30	一人親家庭（母子・父子）への福祉施策	1.20	前回調査なし	-
	31	子育てへの支援	1.39	1.21	0.18
	32	保育所や保育サービス	1.39		1.39
	教育・文化	33	生涯学習活動の施設や講座メニュー	0.82	0.58
			0.42		-0.42
34		小中学校の教育内容	1.43	1.26	0.17
35		高校生への通学支援対策	1.26	前回調査なし	-
36		文化施設	0.81	0.53	0.28
37		スポーツ振興、スポーツ施設	0.77	0.40	0.37
				0.30	-0.30
38		文化・芸術振興、伝統文化の継承	1.01	0.42	0.59
39	青少年の健全な育成	1.19	0.98	0.21	
40	国際交流・多文化共生	0.44	0.20	0.24	
地域自治・行政運営	41	地域づくり活動への支援	1.08	0.69	0.39
	42	NPO・ボランティアへの活動支援	0.80	0.54	0.26
	43	集会所などのコミュニティ施設	0.95	0.51	0.44
	44	子どもからお年寄りの世代間の交流	1.04	前回調査なし	-
	45	町政への住民参加	1.11	1.10	0.01
	46	町の広報や情報公開	1.22	1.17	0.05
	47	効率的な行政や財政の運営	1.41	前回調査なし	-
	48	役場の窓口などの行政サービス・職員対応	1.42	1.26	0.16

### ③満足度と重要度の関係について

※満足度と重要度の関係を把握するため、48 項目全体の評点の平均値（満足度：0.29 点、重要度：1.18 点）をもとに、全 48 項目を【重点改善項目】、【重点維持項目】、【推移注目項目】、【維持項目】の 4 区分に分類した。

A ランク：【重点改善項目】（満足度が低く、重要度が高い）

～最優先で改善が求められるもの～

B ランク：【重点維持項目】（満足度が高く、重要度も高い）

～概ね満足が得られているが引き続き維持・充実していくことが求められるもの～

C ランク：【推移注目項目】（満足度が低く、重要度も低い）

～重点課題ではないが、今後の推移を注目していくことが求められるもの～

D ランク：【維持項目】（満足度が高く、重要度が低い）

～このままの状態を保つことが求められるもの～

### ◆「雇用対策」、「農業振興」、「商業・商店街振興」など、雇用、産業対策を重要的に改善していくことが求められている。

- 【重点改善項目】としては、「雇用対策」、「農業振興」、「商業・商店街振興」などがあげられ、雇用、産業対策を重要的に改善していくことが求められている。
- 【重点維持項目】としては、「地域医療・救急医療対策」、「救急・消防体制の整備」、「高齢者福祉」、「地域防災体制や防災対策」などがあげられ、町民の生命に関わる医療や救急、防災などを引き続き維持・充実していくことが求められている。
- 【推移注目項目】としては、「工業振興・企業立地の施策」、「男女共同参画」、「林業振興」、「観光振興」などがあげられ、工業、林業、観光については重点課題ではないが、今後の推移を見守っていくことが求められている。
- 【維持項目】としては、「地域づくり活動支援」、「文化・芸術振興、伝統文化の伝承」、「コミュニティ施設」などがあげられ、現状の状況を維持することが求められている。

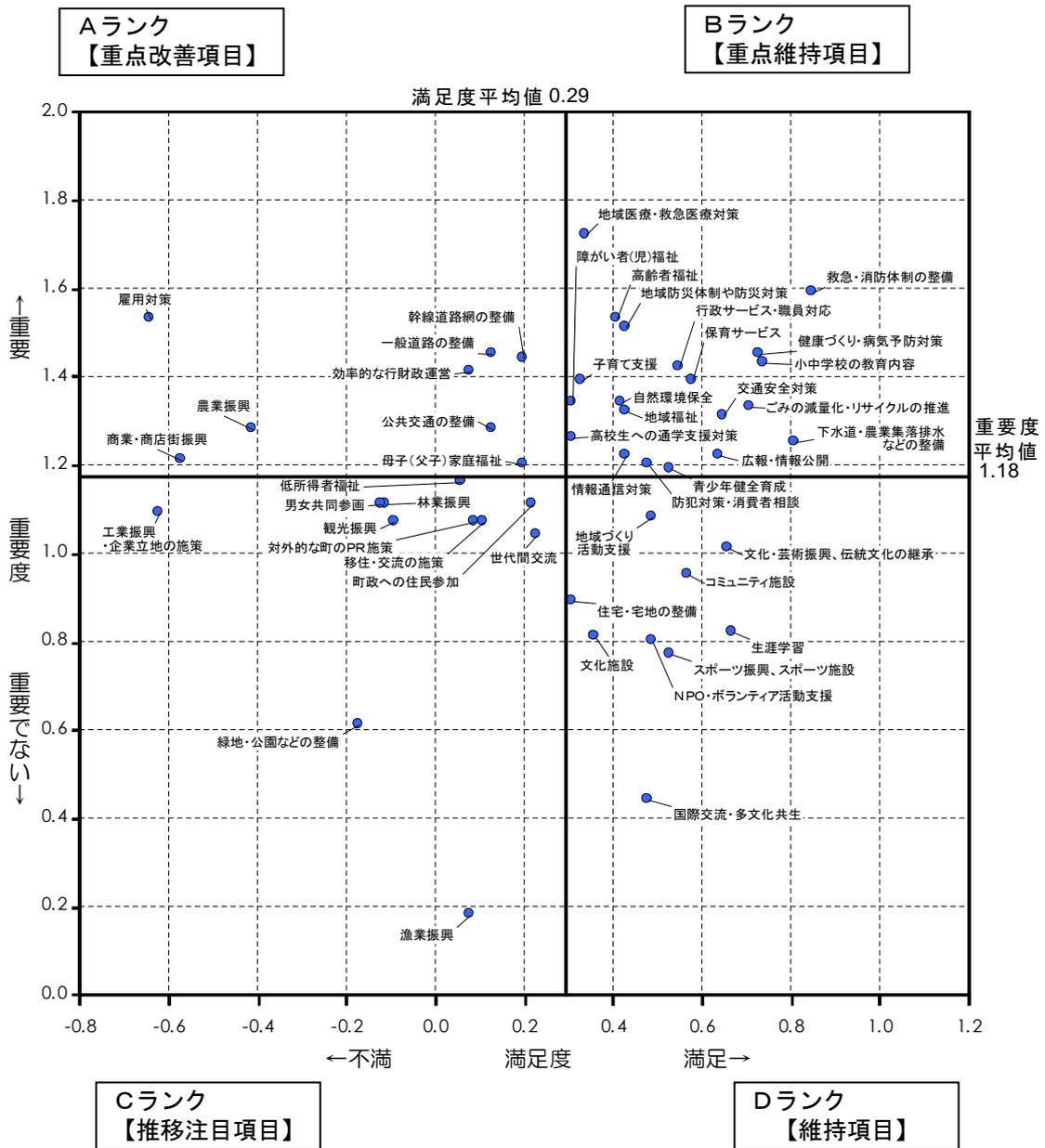


図 3-3-3 満足度と重要度の散布図

## 第4章 東栄町の将来のまちづくりについて

### 1. 将来のまちの姿

問 11 あなたは、東栄町が今後、どのようなイメージのまちをめざすべきだと思いますか。  
あなたのお考えに近いものを2つまで選んで、番号に○印をつけてください。

◆人にやさしいまちをはじめ、環境にやさしいまち、いきいきと暮らせるまち、活力のあるまちが望まれています。

○東栄町の将来のまちの姿としては、「子ども、高齢者、障がい者が暮らしやすい、人にやさしいまち」が 37.6%で最も割合が高くなっている。次いで、「自然を大切にし、自然の魅力を感じられる環境にやさしいまち」が 34.4%、「健康でいきいきと暮らせるまち」が 23.4%、「工業などの産業が盛んで活力のあるまち」が 14.0%と続いており、人や環境にやさしく、いきいきと暮らせるまちが望まれている。

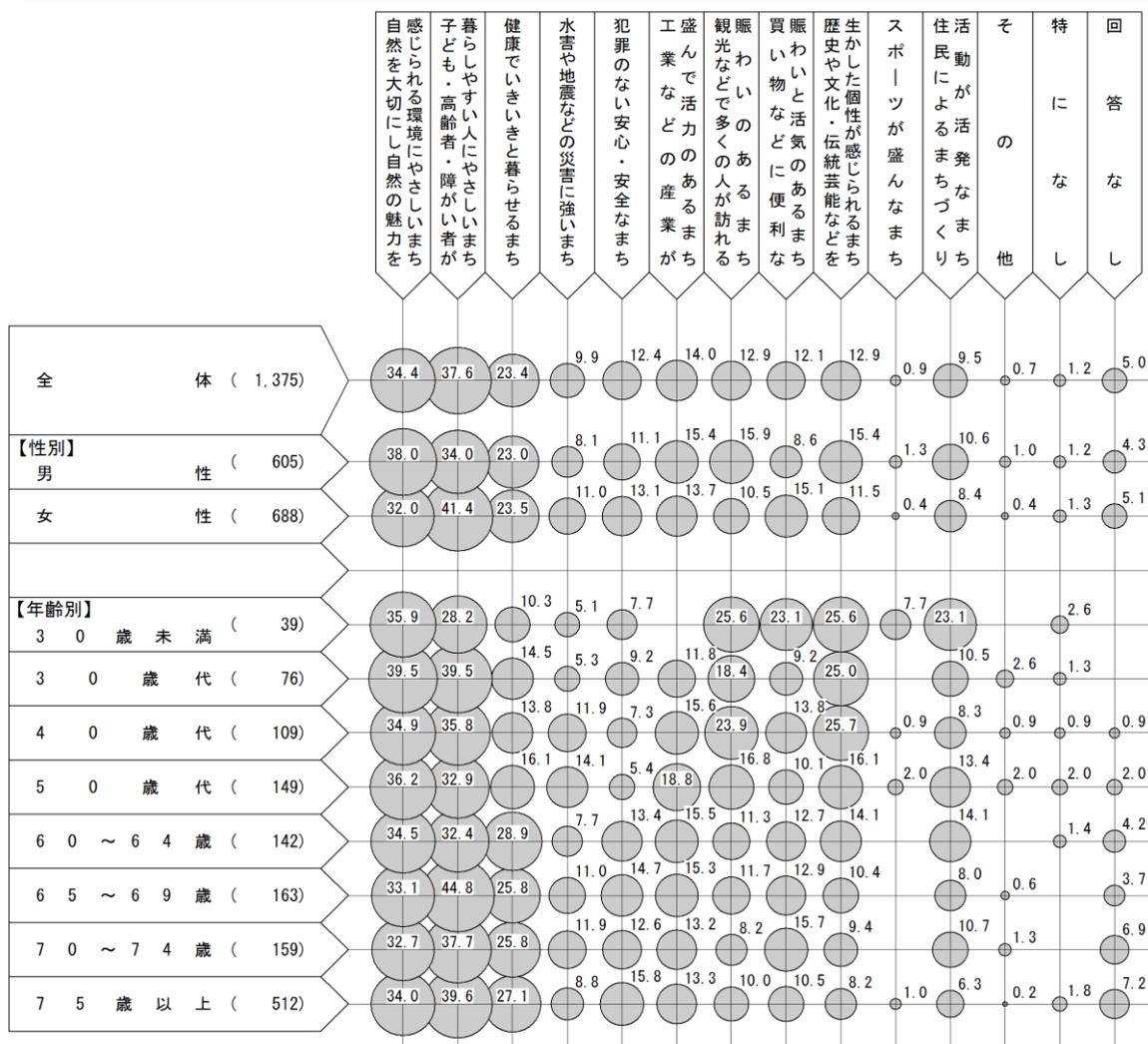


図 4-1 将来のまちの姿 (性別・年齢別)

## 【性別・年齢別】

---

- 性別で見ると、男性では「自然を大切にし、自然の魅力を感じられる、環境にやさしいまち」の割合が高く、女性では「子ども、高齢者、障がい者が暮らしやすい、人にやさしいまち」の割合が高くなっている。
  - 年齢別で見ると、50歳代、60～64歳代では「自然を大切にし、自然の魅力を感じられる、環境にやさしいまち」の割合が高くなっている。また、60歳代以上になると「健康でいきいきと暮らせるまち」の割合が高くなっている。さらに、50歳代未満では、「観光などで多くの人を訪れる賑わいのあるまち」や「歴史や文化・伝統芸能などを生かした個性が感じられるまち」の割合が高くなっている。
-

## 2. 産業振興

問 12 あなたは、東栄町の産業振興に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを2つまで選んで、番号に○印をつけてください。

### ◆農林漁業の振興をはじめ、企業誘致、起業化支援、6次産業化などに力を入れていくことが望まれています。

○東栄町の産業振興に向けて必要なこととしては、「農林漁業後継者の育成や生産性の向上、農地や山林の保全を図る」が38.0%で最も割合が高くなっている。次いで、「新たな工場・企業等を誘致する」が29.5%、「6次産業化（生産・加工・販売の一体化など）、地域のブランド化など、新たに起業する人を支援する」が26.7%、「既存の商店の存続や魅力化を図る」が20.4%と続いており、農林漁業の振興、企業誘致、起業化支援、6次産業化などに力を入れていくことが望まれている。

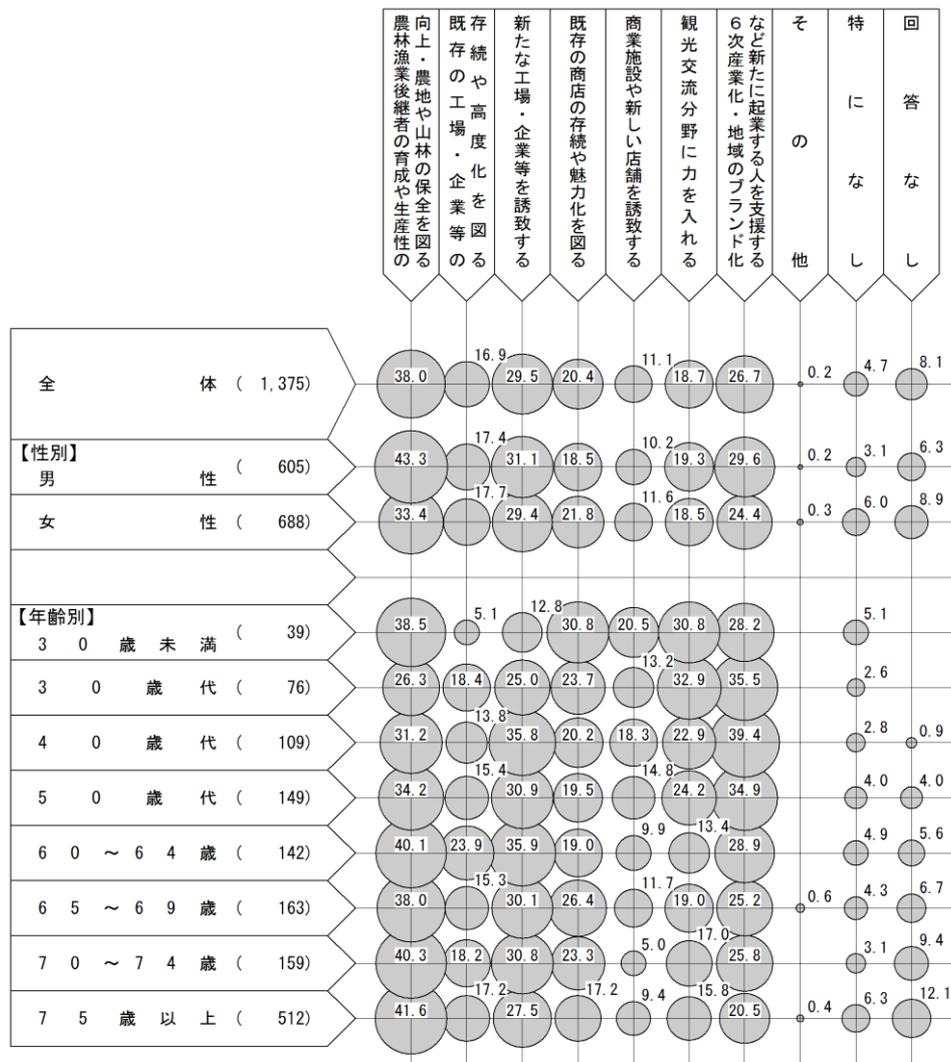


図 4-2 産業振興（性別・年齢別）

## 【性別・年齢別】

---

- 性別で見ると、男性では「農林漁業後継者の育成や生産性の向上、農地や山林の保全を図る」や「6次産業、地域ブランド化など、新たに起業する人を支援する」の割合が高く、女性では「既存の商店の存続や魅力化を図る」の割合が高くなっている。
  - 年齢別で見ると、60歳代以上になると「農林漁業後継者の育成や生産性の向上、農地や山林の保全を図る」の割合が高くなっている。また、50歳代未満では、「6次産業化、地域のブランド化など、新たに起業する人を支援する」や「観光交流文化に力を入れる」、「商業施設や新しい店舗を誘致する」の割合が高くなっている。
-

### 3. 観光・交流の推進

問 13 あなたは、東栄町の観光・交流の推進に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを2つまで選んで、番号に○印をつけてください。

#### ◆森林や河川などの自然を活用した観光・交流に力を入れていくことが望まれています。

○東栄町の観光・交流の推進に向けて必要なこととしては、「自然を活用した観光地づくりを行う」が 49.6%で最も割合が高く、回答者の半数を占めている。次いで、「花祭りやチェーンソーアートなどの地域資源を活用した観光・交流を進める」が 43.1%、「農業や林業などを通じた観光・交流を進める」が 29.3%、「施設整備による新たな魅力ある観光地づくりを行う」が 27.6%となっており、森林や河川（煮え淵、預り淵、鳶の淵のポットホールなど）などの自然を活用した観光・交流に力を入れていくことが望まれている。

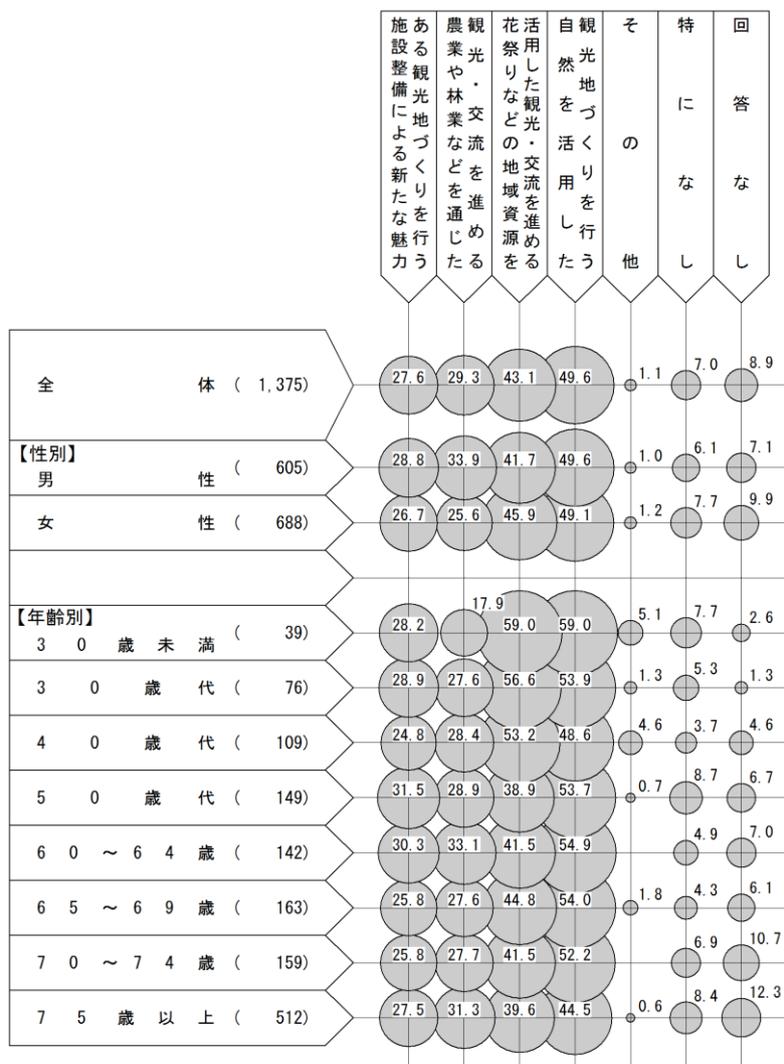


図 4-3 観光・交流の推進（性別・年齢別）

## 【性別・年齢別】

---

- 性別で見ると、男女であまり変わりがないが、男性では「農業や林業などを通じた観光・交流を進める」の割合が高く、女性では「花祭りなどの地域資源を活用した観光・交流を進める」の割合が高くなっている。
  - 年齢別で見ると、年齢が若いほど「花祭りなどの地域資源を活用した観光・交流を進める」の割合が高くなっている。また、50歳代や60～64歳では「施設整備による新たな魅力ある観光地づくりを行う」の割合が高くなっている。さらに、60～64歳、75歳代以上では「農業や林業などを通じた観光・交流を進める」の割合が高くなっている。
-

#### 4. 高齢者施策

問 14 あなたは、高齢者に対する施策について、どのようなことが必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを2つまで選んで、番号に○印をつけてください。

◆移動がしやすいように公共交通サービスを充実することをはじめ、介護・福祉サービスを充実すること、医療費などの経済的な負担を軽減すること、地域の支え合いや見守りを推進することなどが望まれています。

○高齢者に対する施策で必要なこととしては、「車が運転できなくても買い物や通院に困らないようにバス等の公共サービスを充実する」が31.6%で最も割合が高くなっている。次いで、「入所施設やデイサービスなどの介護・福祉サービスを充実する」が27.0%、「医療や福祉サービスなどに対する経済的な負担を軽減する」が26.9%、「地域の人による買い物や見守りなど、地域の助け合いや支え合いを推進する」が20.7%となっており、移動がしやすいように公共交通サービスを充実すること、介護・福祉サービスを充実すること、医療費などの経済的な負担を軽減すること、地域の支え合いや見守りを推進することなどが望まれている。

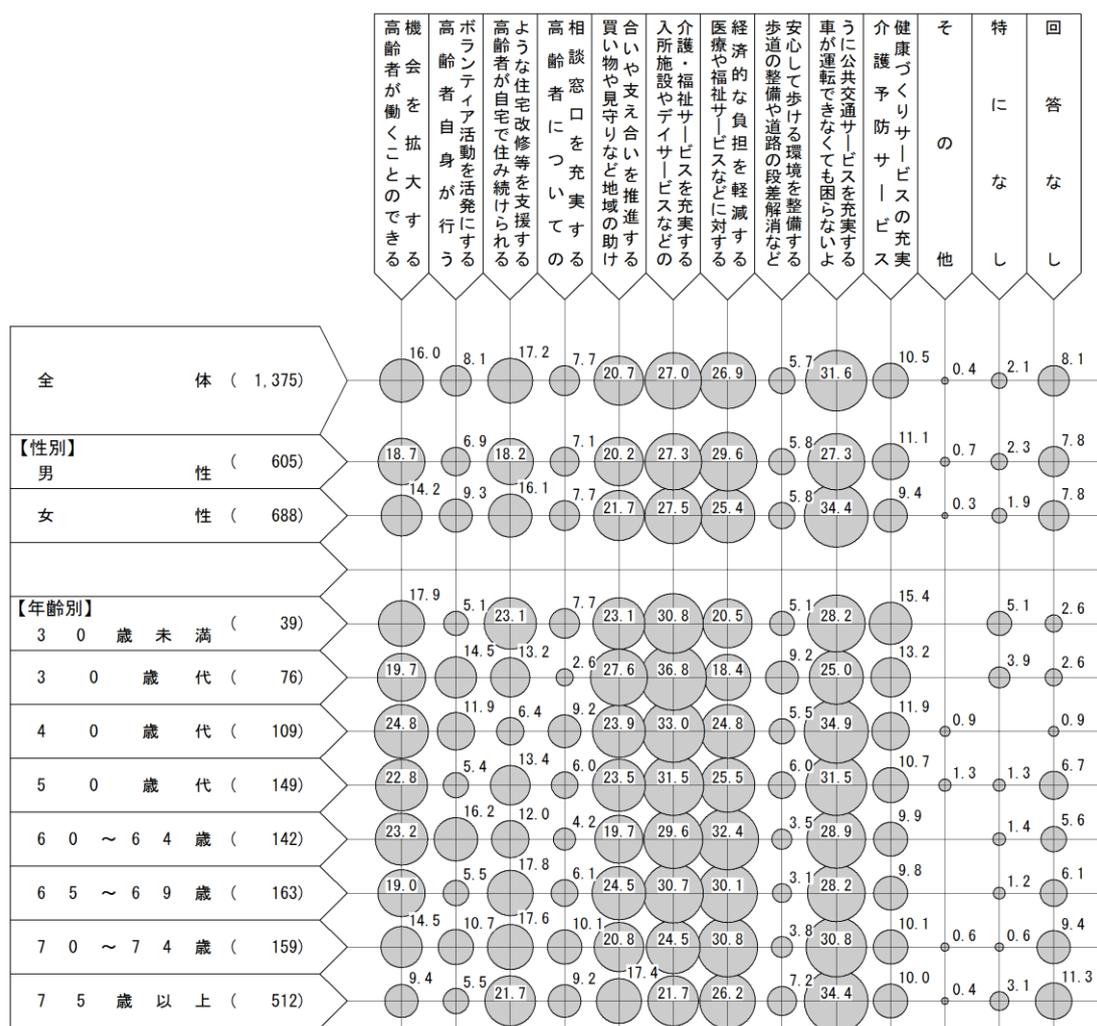


図 4-4 高齢者施策 (性別・年齢別)

## 【性別・年齢別】

---

- 性別でみると、男性では「医療や福祉サービスなどに対する経済的な負担を軽減する」や「高齢者が働くことができる機会を拡大する」の割合が高く、女性では「車が運転できなくても買い物や通院に困らないようにバス等の公共サービスを充実する」の割合が高くなっている。
  - 年齢別でみると、30歳代、40歳代、50歳代、60～64歳では「入所施設やデイサービスなどの介護、福祉サービスを充実する」や「高齢者が働くことができる機会を拡大する」の割合が、また60～64歳、65～69歳、70～74歳では「医療や福祉サービスなどに対する経済的な負担を軽減する」の割合が高く、当事者となる可能性のある世代に応じてニーズが異なっている。さらに30歳代では「買い物や見守りなど地域の助け合いや支え合いを推進する」の割合が高くなっている。
-

## 5. 子育て支援

問 15 あなたは、東栄町において子育てをしやすい環境を整えるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あなたのお考えに近いものを2つまで選んで、番号に○印をつけてください。

◆子育てしやすい労働環境を整えることをはじめ、子ども達に安全・安心な環境や自然体験や社会体験等の機会を提供すること、多様な保育サービスを充実することなどが望まれています。

○子育てしやすい環境を整えるために力を入れることとして、「育児休業や労働時間短縮など、子育てをしながら働き続けられる環境をつくる」が31.3%で最も割合が高くなっている。次いで、「安心して子どもを遊ばせることのできる公園や広場等を整備する」が17.6%、「子どもに多様な自然体験、文化体験、スポーツ体験、社会体験の機会を提供する」が17.5%、「乳児保育や一時預かり、病児・病後児保育など、多様なサービスを充実する」が15.3%、「子どもを犯罪、交通事故などから守ることができる地域環境を整備する」が14.4%と続いており、子育てしやすい労働環境を整えることをはじめ、子ども達に安全・安心な環境や自然体験や社会体験等の機会を提供すること、多様な保育サービスを充実することなどが望まれている。

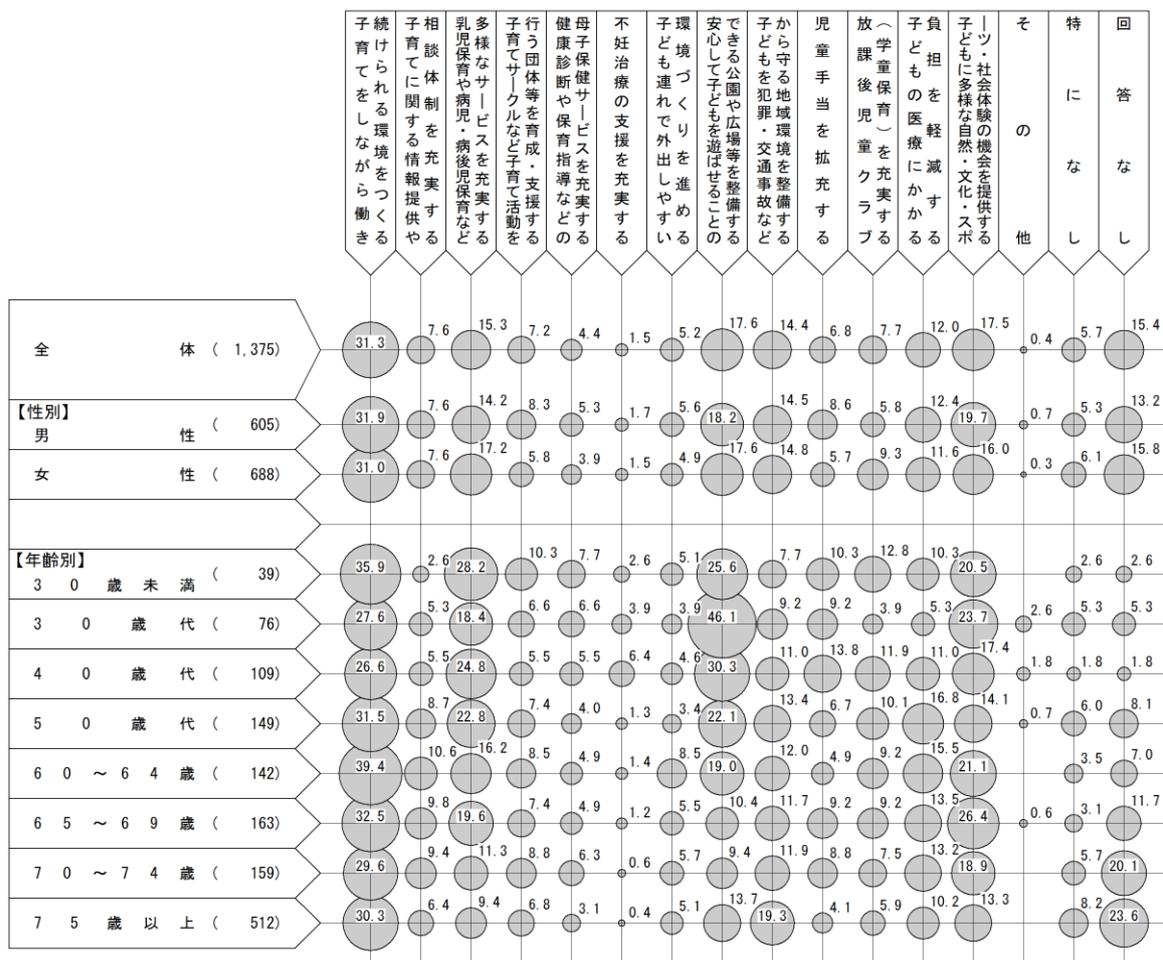


図 4-5 子育て支援（性別・年齢別）

## 【性別・年齢別】

---

- 性別で見ると、男性では「安心して子どもを遊ばせることのできる公園や広場等を整備する」や「子どもに多様な自然体験、文化体験、スポーツ体験、社会体験の機会を提供する」の割合が高く、女性では「乳児保育や一時預かり、病児・病後児保育など、多様なサービスを充実する」の割合が高くなっている。
  - 年齢別で見ると、30歳代、40歳代では「安心して子どもを遊ばせることのできる公園や広場等を整備する」の割合が、30歳未満、50歳代では「乳児保育や一時預かり、病児・病後児保育など、多様なサービスを充実する」の割合が、60～64歳、65～69歳、70～74歳では「子どもに多様な自然体験、文化体験、スポーツ体験、社会体験の機会を提供する」の割合が、75歳以上では「子どもを犯罪、交通事故などから守ることができる地域環境を整備する」の割合が高くなっている。
-

## 6. 学校教育

問 16 あなたは、東栄町の学校教育をより良くするために、どのようなことが必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを2つまで選んで、番号に○印をつけてください。

### ◆社会生活を送る上で最低限身に付けておくべき教育や、集団生活に必要な能力、地域の伝統文化の学習、健やかな体を育む情操教育を充実することが望まれています。

○学校教育をより良くするために必要なこととして、「社会に必要な基礎的な知識や技能、しつけ、マナーなどを教える」が47.5%で最も割合が高く、社会生活を送る上で家庭や地域で行われてきた教育を学校教育に求めるようになってきていることがうかがえる。次いで、「周囲の人との協調など、集団生活に必要な能力を身につけさせる」が19.9%、「地域の伝統や文化などを教え、郷土愛を育てる」が15.5%、「健全な精神と丈夫で健康な体を育てる」が15.5%と続いており、集団生活に必要な能力、地域の伝統文化の学習、健やかな体を育む教育などを充実していくことが望まれている。

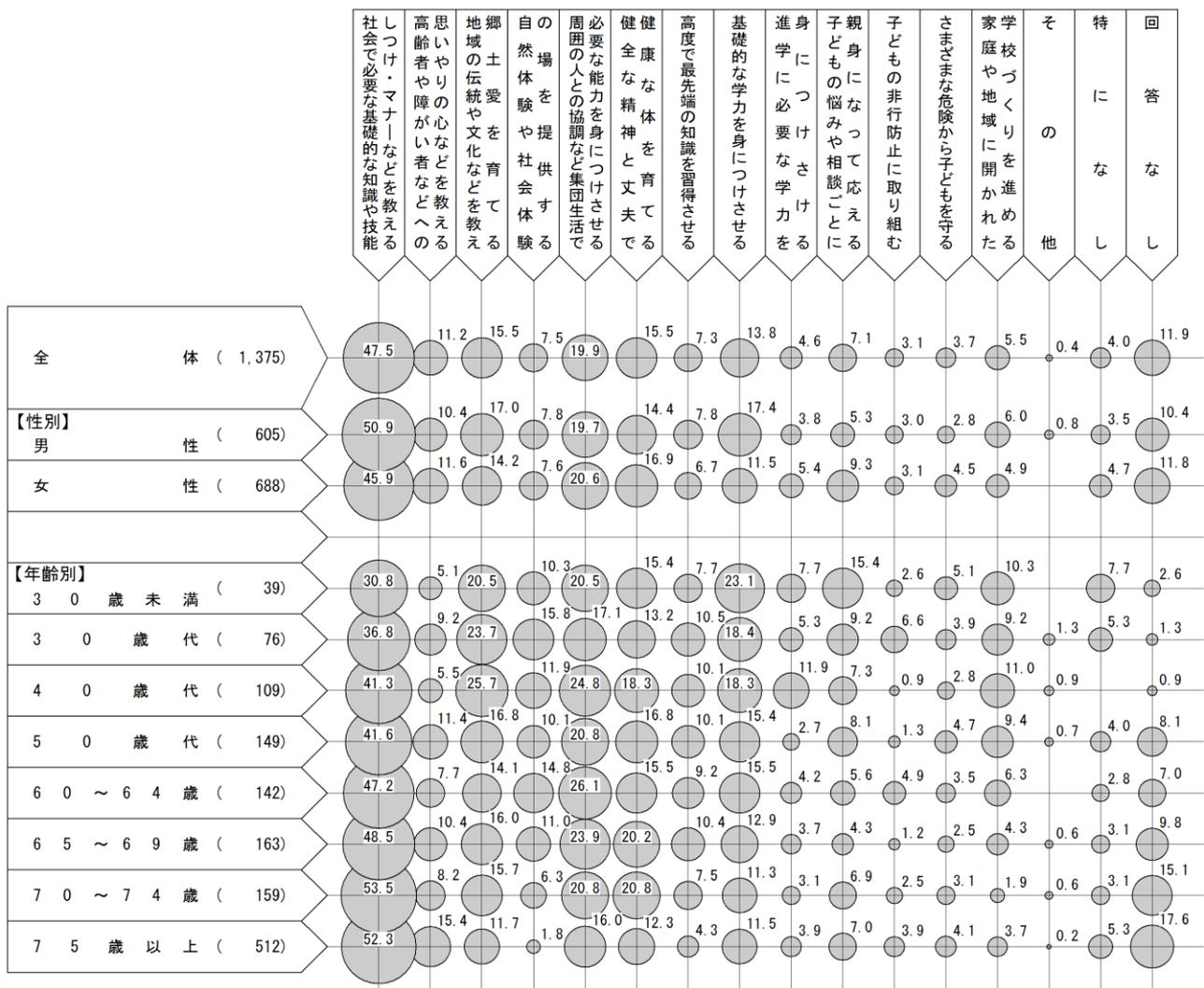


図 4-6 学校教育 (性別・年齢別)

## 【性別・年齢別】

---

- 性別でみると、性別で大きく変わらないが、男性では「社会に必要な基礎的な知識や技能、しつけ、マナーなどを教える」や「地域の伝統や文化などを教え、郷土愛を育てる」、「基礎的な学力を身につけさせる」の割合が高く、女性では「周囲の人との協調など、集団生活に必要な能力を身につけさせる」や「子どもの悩みや相談ごとに親身になって応える」の割合が高くなっている。
  - 年齢別でみると、年齢が高くなればなるほど、「社会に必要な基礎的な知識や技能、しつけ、マナーなどを教える」の割合が高くなっている。また、年齢が若くなればなるほど、「基礎的な学力を身につけさせる」の割合が高くなっている。さらに、30歳代、40歳代では「地域の伝統や文化などを教え、郷土愛を育てる」の割合が、50歳代、60～64歳、65～69歳では「周囲の人との協調など、集団生活に必要な能力を身につけさせる」の割合が、70～74歳では「健全な精神と丈夫で健康な体を育てる」の割合が高くなっている。
-

## 7. 生涯学習・スポーツ振興

問 17 あなたは、東栄町の生涯学習やスポーツ振興のために、どのようなことが必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを2つまで選んで、番号に○印をつけてください。

### ◆気軽に生涯学習やスポーツを楽しめる機会を確保していくことをはじめ、交流できるサークル活動を増やすこと、講座内容を充実していくことなどが望まれています。

○生涯学習やスポーツ振興のために必要なこととして、「誰もが気軽に生涯学習やスポーツを楽しめる講座やイベントを開催する」が40.8%で最も割合が高くなっている。次いで、「同じ趣味や価値観を持つ人同士が交流できるサークル活動を増やす」が22.2%、「趣味だけでなく知識や教養を高めることができるような講座を充実する」が19.1%、「生涯学習やスポーツ活動ができる施設を充実する」が18.6%と続いており、気軽に生涯学習やスポーツを楽しめる機会を確保していくことや、交流できるサークル活動を増やすこと、教養を高めるような講座内容を充実していくことなどが望まれている。

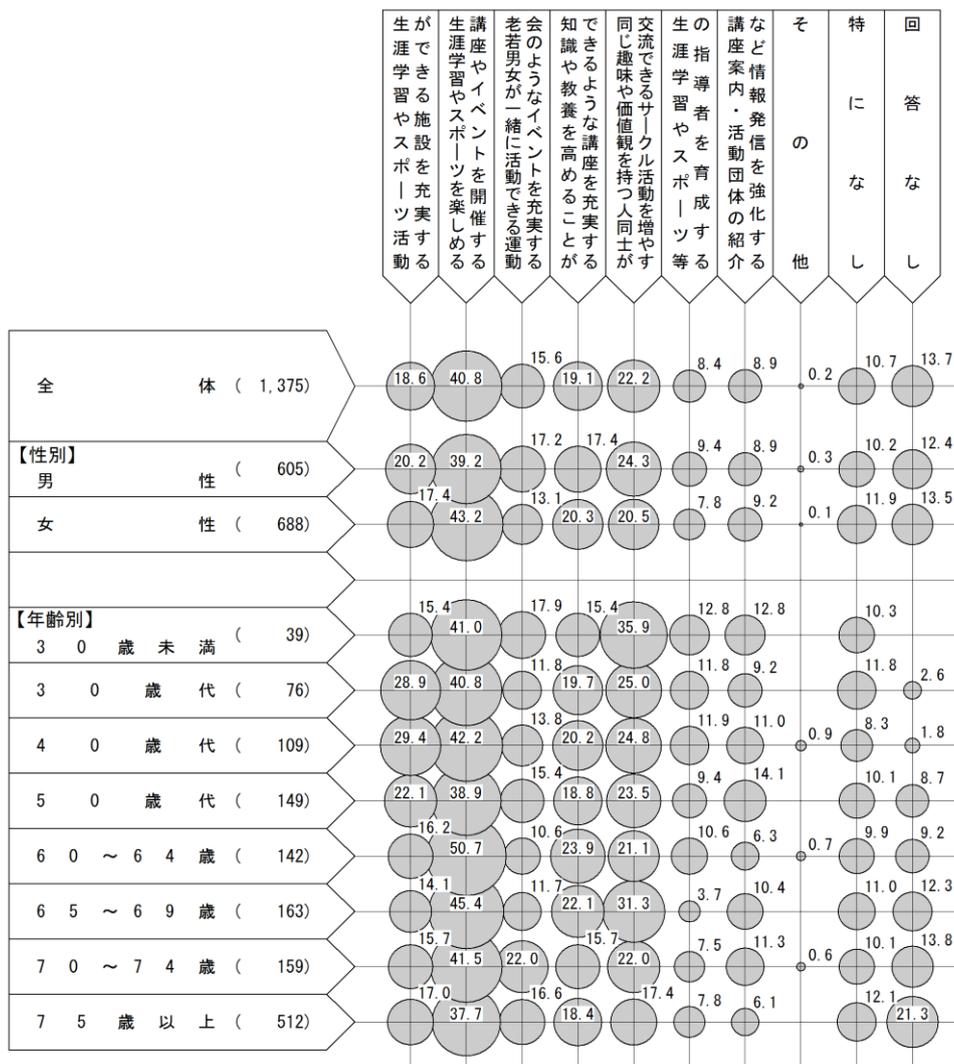


図 4-7 生涯学習・スポーツ振興 (性別・年齢別)

## 【性別・年齢別】

---

- 性別でみると、男性では「同じ趣味や価値観を持つ人同士が交流できるサークル活動を増やす」や「生涯学習やスポーツ活動ができる施設を充実する」の割合が高く、女性では「誰もが気軽に生涯学習やスポーツを楽しめる講座やイベントを開催する」や「趣味だけでなく知識や教養を高めることができるような講座を充実する」の割合が高くなっている。
  - 年齢別でみると、30歳未満、50歳代、65～69歳では「同じ趣味や価値観を持つ人同士が交流できるサークル活動を増やす」の割合が、30歳代、40歳代では「生涯学習やスポーツ活動ができる施設を充実する」の割合が、60～64歳、65～69歳、75歳以上では「趣味だけでなく知識や教養を高めることができるような講座を充実する」の割合が、70～74歳では「老若男女と一緒に活動できる運動会のようなイベントを充実する」の割合が高くなっている。
-

## 8. 参加している地区のまちづくり活動

問 18 あなたは、地区を良くしていくために、現在、どのような活動に参加していますか。  
あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

### ◆半数以上の回答者が何らかの活動に参加しており、活動としては地区の自治活動をはじめ、地域づくり活動、環境、防災に関わる活動などに参加しています。

○地区を良くしていくために、現在活動に参加していることについては、「特になし」が30.2%で最も割合が高くなっており、「無回答」14.8%も除き、残り55.0%（756人）が何らかの活動に参加している。

○参加している活動としては、「区や老人クラブなどの活動」が25.2%で最も高く、次いで「地域のまちづくりに関わる活動全般」が15.9%、「環境（自然保全、ごみ対策など）に関わる活動」が14.9%、「防災に関わる活動」が12.3%などとなっており、地区の自治活動をはじめ、地域づくりの活動、環境、防災に関わる活動などとなっている。

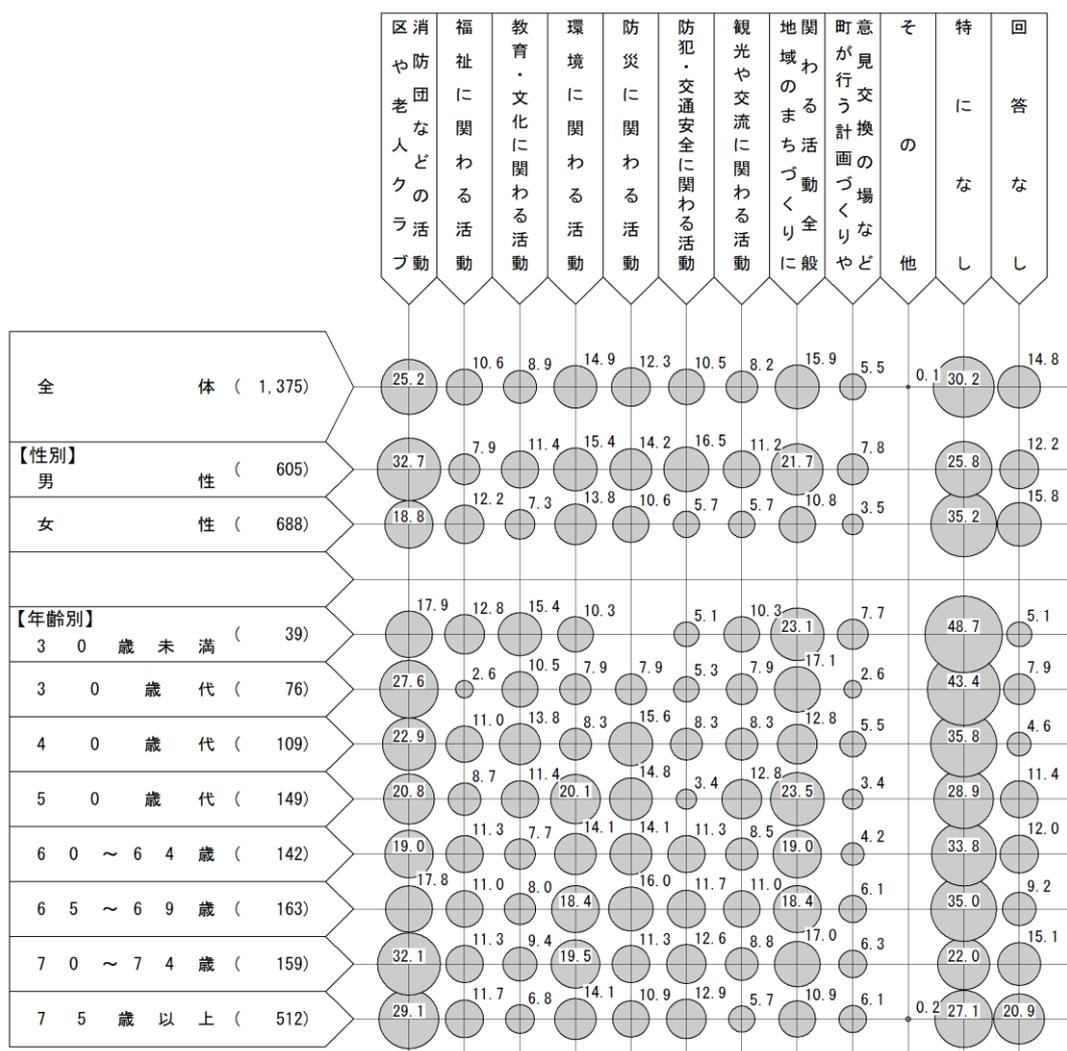


図 4-8 参加している地区のまちづくり活動（性別・年齢別）

## 【性別・年齢別】

---

- 性別で見ると、女性では「特になし」の割合が高く、男性の方が地区のまちづくり活動に参加している方が多くなっている。その中で男性では「区や老人クラブ、消防団などの活動」の割合が高くなっている。
  - 年齢別で見ると、年齢が若くなればなるほど、「特になし」の割合が高くなっている。また、30歳代、40歳代、70～74歳、75歳以上では「区や老人クラブ、消防団などの活動」の割合が、50歳代、60～64歳、65～69歳では「地域のまちづくりに関わる活動全般」の割合が、65～69歳、70～74歳では「環境に関わる活動」の割合が高くなっている。
-

## 9. 今後参加したい地区のまちづくり活動

問19 あなたは、地区を良くしていくために、今後、どのような活動であれば参加したいと思いますか。あなたのお考えに近い番号すべてに○印をつけてください。

### ◆今後、地区への活動に参加したい人は6割以上あり、活動としては、地域づくり活動をはじめ、自治活動、環境に関わる活動などへの参加意向が高くなっています。

- 地区を良くしていく活動への今後の参加意向については、「特になし」20.1%と「無回答」13.5%を除き、残り66.4%（913人）が何らかの活動に参加したいと考えている。前問18の現状に比べて今後参加したい人が157人も増加している。
- 参加したい活動としては、「地域のまちづくりに関わる活動全般」が24.7%で最も割合が高く、次いで「環境（自然保全、ごみ対策など）に関わる活動」が24.3%、「区や老人クラブ、消防団などの活動」が21.2%などとなっている。

### 【性別・年齢別】

- 性別で見ると、男性では「地域のまちづくりに関わる活動全般」や「環境に関わる活動」の割合が高く、女性では「福祉に関わる活動」の割合が高くなっている。
- 年齢別で見ると、30歳未満、30歳代では「観光や交流に関わる活動」や「教育・文化に関わる活動」、「環境に関わる活動」の割合が、40歳代では「教育・文化に関わる活動」や「防災に関わる活動」の割合が、50歳代、60～64歳、65～69歳、70～74歳では「地域のまちづくりに関わる活動全般」や「環境に関わる活動」の割合が、75歳以上では「区や老人クラブ、消防団などの活動」や「福祉に関わる活動」の割合が高くなっている。

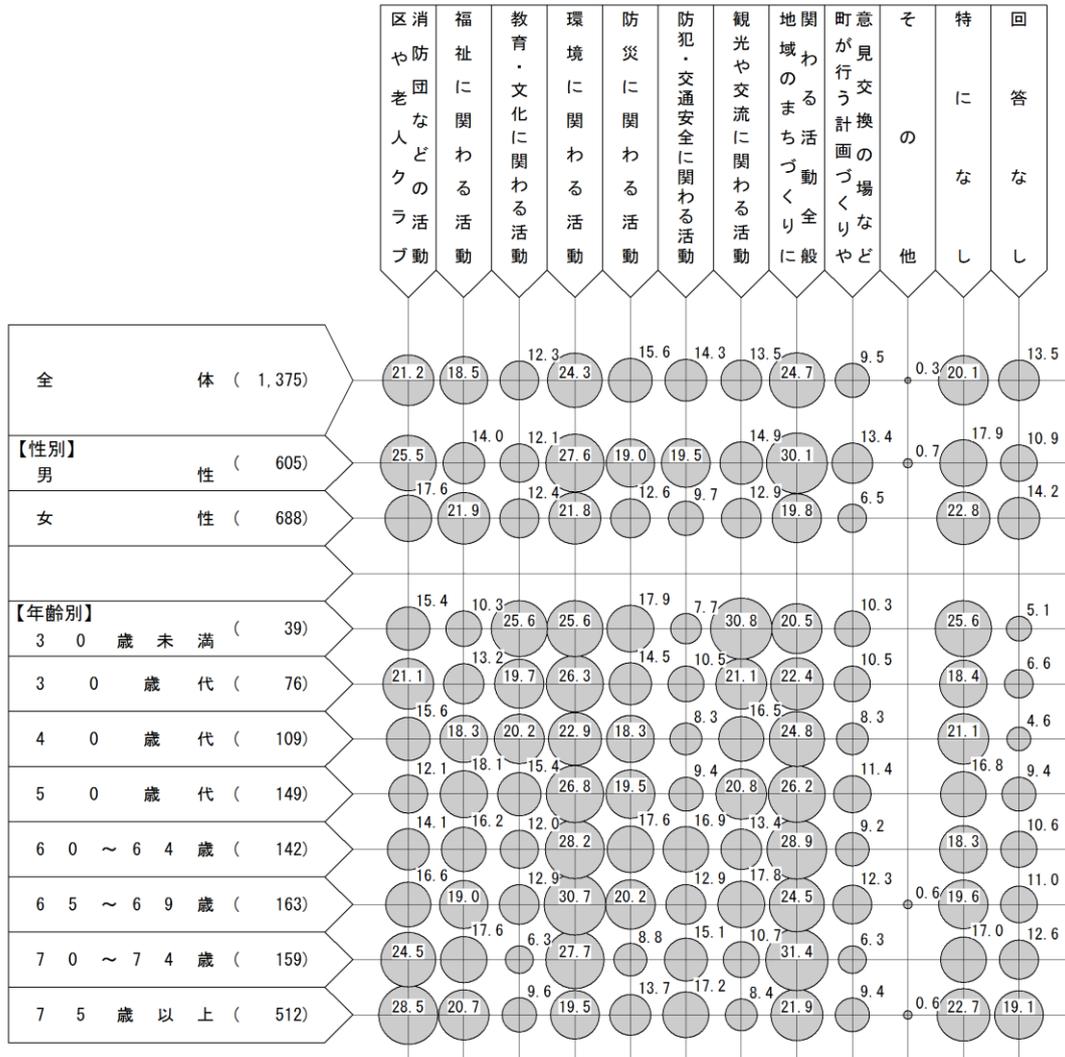


図 4-9 今後参加したい地区のまちづくり活動（性別・年齢別）

## 10. 住民参加や住民主体のまちづくりについて

問 20 あなたは、住民参加や住民主体のまちづくりを推進する上で、町としてどのようなことを行うべきだと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つ選んで、番号に○印をつけてください。

◆住民参加や住民主体のまちづくりを推進する上で、まちづくりの情報を提供することをはじめ、まちづくりへの参加の機会の提供、リーダー等の人材育成が望まれています。

○住民参加や住民主体のまちづくりを推進する上で、町として行うべきこととして、「まちづくりに関するさまざまな情報を提供する」が21.2%で最も割合が高く、次いで「まちづくりについて考えたり、参加したりできる場や機会を提供する」が19.8%、「まちづくりリーダー研修の開催など、まちづくり活動を行う人材を育成する」が17.2%となっており、町としてはまちづくりの情報を提供することをはじめ、まちづくりへの参加の機会を設けること、リーダー育成をすることなどが望まれている。

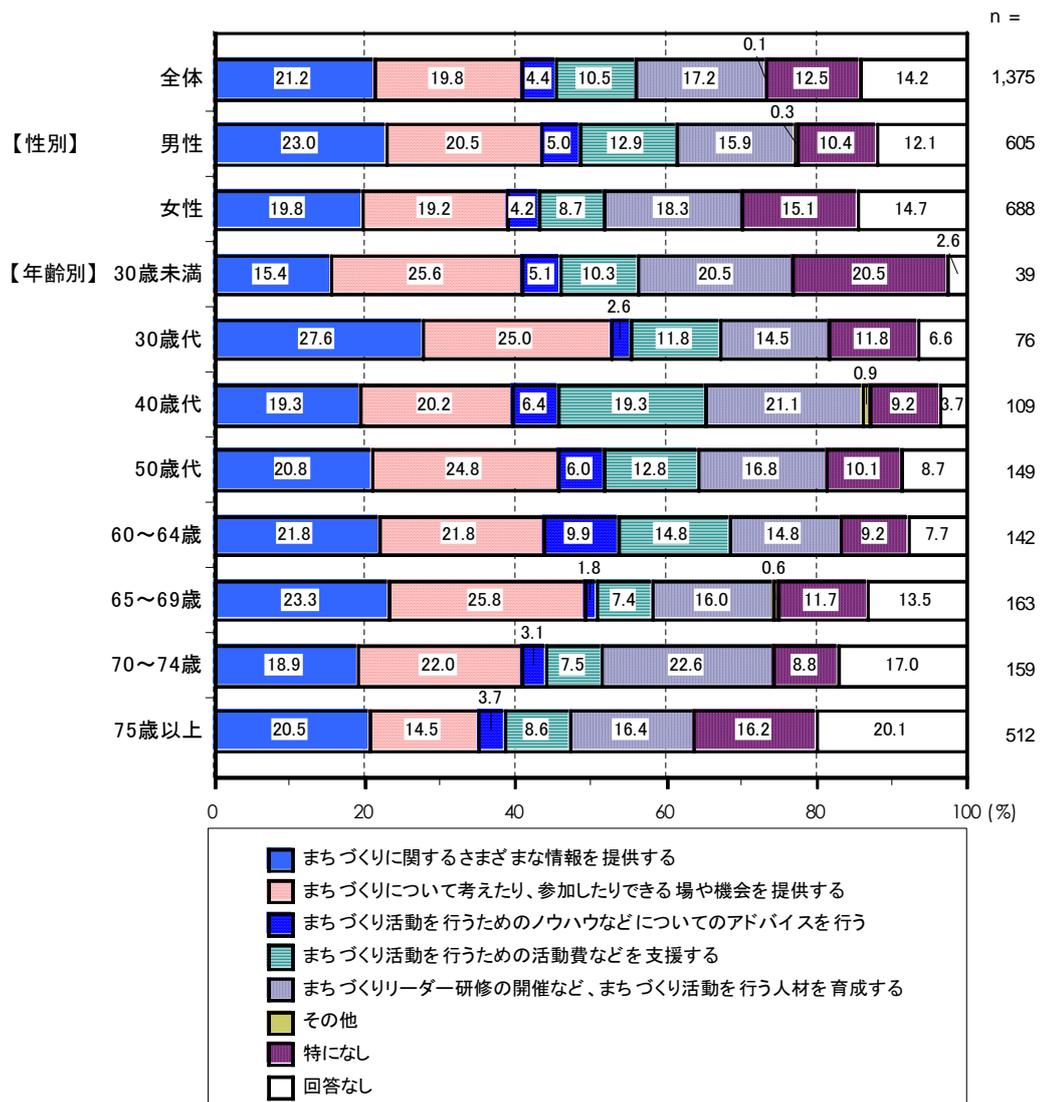


図 4-10 住民参加や住民主体のまちづくりについて（性別・年齢別）

## 【性別・年齢別】

---

- 性別でみると、男性では「まちづくりに関するさまざまな情報を提供する」や「まちづくりについて考えたり、参加したりできる場や機会を提供する」の割合が高く、女性では「まちづくりリーダー研修の開催など、まちづくり活動を行う人材を育成する」の割合が高くなっている。
  - 年齢別でみると、30歳未満、70～74歳では「まちづくりについて考えたり、参加したりできる場や機会を提供する」や「まちづくりリーダー研修の開催など、まちづくり活動を行う人材を育成する」の割合が、30歳代、50歳代、60～64歳、65～69歳では「まちづくりに関するさまざまな情報を提供する」や「まちづくりについて考えたり、参加したりできる場や機会を提供する」の割合が、40歳代では「まちづくりリーダー研修の開催など、まちづくり活動を行う人材を育成する」や「まちづくり活動を行うための活動費などを支援する」の割合が、75歳以上では「特になし」の割合が高くなっている。
-

## 11. 移住促進策について

問 21 あなたは、移住促進のために町としてどのようなことを行うべきだと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つ選んで、番号に○印をつけてください。

### ◆移住促進に向けて、雇用の場を確保することをはじめ、空き家や農地を紹介すること、移住者への相談や支援を行うことなどが望まれています。

○移住促進のために町として行うべきこととして、「雇用の場を確保する」が39.3%で最も割合が高くなっている。次いで「空き家や農地などを仲介・斡旋する」が8.4%、「移住者が町になじむことができるように支援する」が7.9%、「移住や移住後の生活について気軽に相談できる窓口などを開設する」が6.0%となっており、町としては雇用の場を確保することをはじめ、空き家や農地を紹介すること、移住者への相談や支援を行うことなどが望まれている。

### 【性別・年齢別】

- 性別で見ると、性別であまり変わらず「雇用の場を確保する」の割合が高くなっている。また、男性では「空き家や農地などを仲介・斡旋する」の割合が高く、女性では「子育てがしやすい環境を整える」の割合が高くなっている。
- 年齢別で見ると、どの年代も「雇用の場を確保する」の割合が高くなっている。また、30未満、30歳代、40歳代では「子育てがしやすい環境を整える」の割合が、50歳代では「移住者が町になじむことができるように支援する」、60～64歳では「空き家や農地などを仲介・斡旋する」や「移住や移住後の生活について気軽に相談できる窓口などを開設する」の割合が、65～69歳、70～74歳では「空き家や農地などを仲介・斡旋する」の割合が、75歳以上では「特になし」の割合が高くなっている。

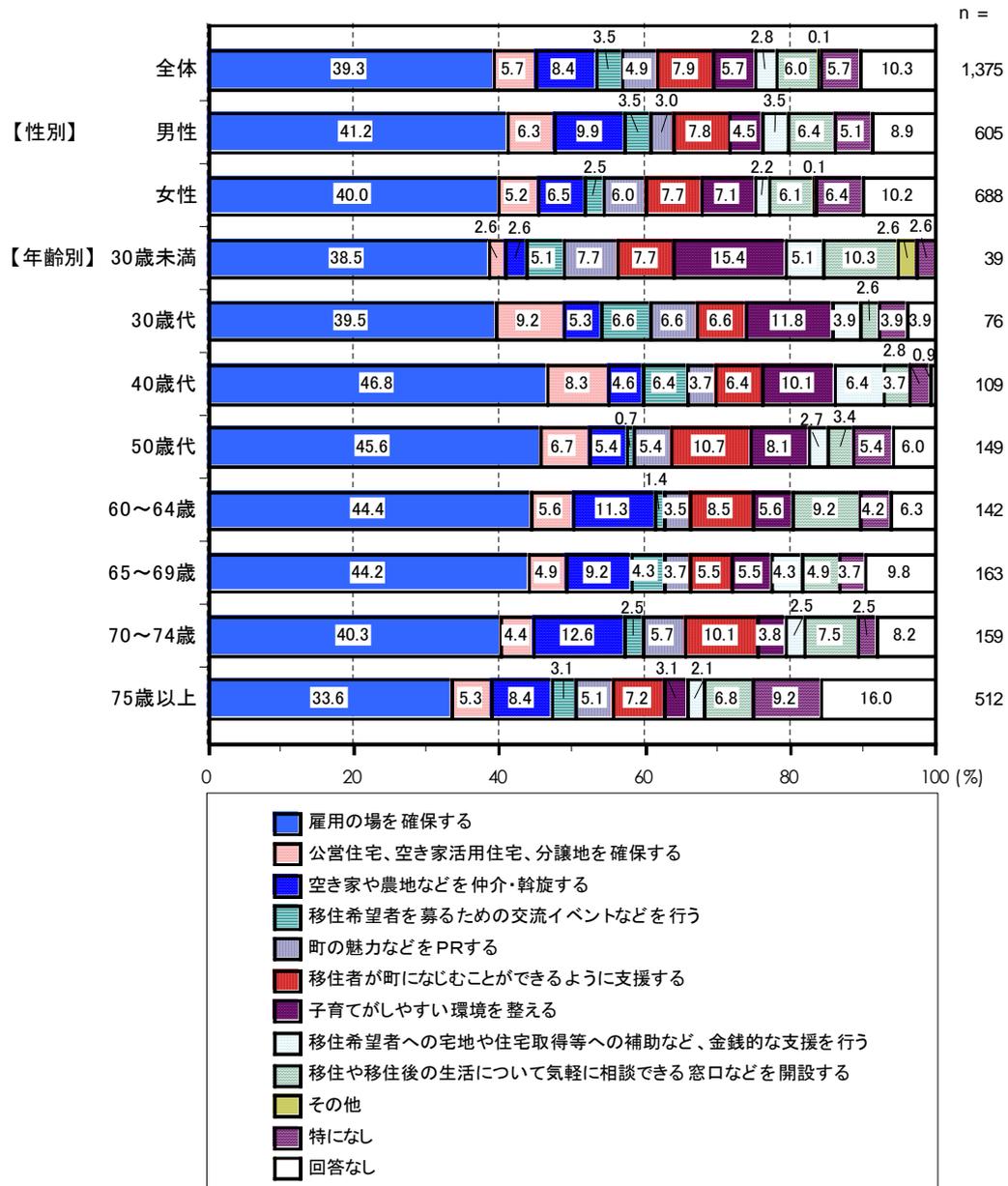


図 4-11 移住促進策（性別・年齢別）



## 【性別・年齢別】

---

- 性別でみると、男性では「迅速な救助・復旧・復興活動を行う体制の整備・充実」や「道路、橋、鉄道など交通施設の耐震化の向上」の割合が高く、女性では「食料、飲料水、医薬品の備蓄倉庫の確保」をはじめ、「避難場所、避難所の整備」、「災害時における迅速な情報提供」の割合が高く、女性は避難や避難生活への対策に力を入れていくことが望まれている。
  - 年齢別でみると、どの年代も「食料、飲料水、医薬品の備蓄倉庫の確保」の割合が高くなっている。また、年齢が若くなればなるほど、「迅速な救助・復旧・復興活動を行う体制の整備・充実」の割合が高くなっている。40歳代、60～64歳、65～69歳では「避難場所、避難所の整備」の割合が、50歳代、75歳以上では「災害時における迅速な情報提供」の割合が、70～74歳では「道路、橋、鉄道など交通施設の耐震化の向上」の割合が高くなっている。
-